MICROLINE Pro 9800PS ユーザーズマニュアル

カラーガイド

このマニュアルは、以下の製品に対応しています。

MICROLINE Pro 9800PS-X
MICROLINE Pro 9800PS-S
MICROLINE Pro 9800PS-E

◯このマニュアルには、プリンタを安全に使用していただくための注意事項が書かれています。
　プリンタをご使用になる前に、必ず本マニュアルをお読みください。
◯本マニュアルをプリンタのそばに置いて、ご使用ください。

マニュアルの構成

本製品のユーザーズマニュアルは、次のような8部構成になっています。目的に応じてお読みください。

プリンタ機能編

プリンタの使い方や持っている機能、消耗品の交換方法、紙づまり等のトラブルの対処方法、オプション類の取り付け方が載っています。

セットアップ編ー Windows をお使いの方ー

Windowsのコンピュータから印刷できるようにするまでの手順が載っています。

プリンタの設置が終わったら、お読みください。

セットアップ編ー Macintosh、UNIX、Linux をお使いの方ー

Macintosh、UNIX、Linuxのコンピュータから印刷できるようにするまでの手順が載っています。

プリンタの設置が終わったら、お読みください。

応用編

色々な用紙に印刷したい時、便利な機能を使って印刷したい時、添付のユーティリティを使って快適な印刷環境にしたい時、カラーを調整したい時などにお読みください。

設定管理ガイド

MLPro9800PS がサポートするプラットフォームやネットワーク環境別に、MLPro9800PSの基本的な設定方法と管理方法を説明します。また、クライアントやネットワーク上の他のワークステーションにPostScript印刷サービスを提供するためにUNIX、WindowsNT/2000、Novell サーバを設定する方法についても説明します。

PS 印刷ガイド

リモートワークステーションからネットワークを介してMLPro9800PSに印刷ジョブを送信する方法、プリントオプション、MLPro9800PS が提供するフォントについて説明します。

カラーガイド(本書)

キャリブレーションおよびColorWise ProToolsに関する情報を提供します。

ジョブ管理ガイド

MLPro9800PSが提供する Command WorkStation/Command WorkStation LE、その他のユーティリティの機能、およびジョブ管理の方法を説明します。本書は印刷ジョブフローの監視/管理やトラブルシューティングを行うシステム管理者/オペレータ、および同レベルのアクセス特権を持つユーザを対象に書かれています。

本書の表記

⚠警告　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があることを示しています。

⚠注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることを示しています。

プリンタを正しく動作させるための注意や制限です。
誤った操作をしないため、必ずお読みください。

プリンタを使用するときに知っておくと便利なことや参考になることです。
お読みになることをお勧めします。

本書では、次のように表記している場合があります。

- MICROLINE Pro 9800PS-X → MLPro9800PS-X
- MICROLINE Pro 9800PS-S → MLPro9800PS-S
- MICROLINE Pro 9800PS-E → MLPro9800PS-E
- MLPro9800PS-X、MLPro9800PS-S、MLPro9800PS-Eの総称 → MLPro9800PS
- Microsoft® Windows Server™ 2003 operating system日本語版 → Windows Server 2003
- Microsoft® Windows® XP operating system日本語版 → WindowsXP
- Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版 → WindowsMe
- Microsoft® Windows® 98 operating system 日本語版 → Windows98
- Microsoft® Windows® 95 operating system 日本語版 → Windows95
- Microsoft® Windows® 2000 operating system 日本語版 → Windows2000
- Microsoft® Windows NT® operating system Version4.0日本語版 → WindowsNT4.0
- Windows Server 2003、WindowsXP、WindowsMe、Windows98、Windows95、Windows2000、WindowsNT4.0の総称→Windows

Patents: 4,716,978, 4,828,056, 4,917,488, 4,941,038, 5,109,241, 5,170,182, 5,212,546, 5,260,878, 5,276,490, 5,278,599, 5,335,040, 5,343,311, 5,398,107, 5,424,754, 5,442,429, 5,459,560, 5,467,446, 5,506,946, 5,517,334, 5,537,516, 5,543,940, 5,553,200, 5,563,689, 5,565,960, 5,583,623, 5,596,416, 5,615,314, 5,619,624, 5,625,712, 5,640,228, 5,666,436, 5,745,657, 5,760,913, 5,799,232, 5,818,645, 5,835,788, 5,859,711, 5,867,179, 5,940,186, 5,959,867, 5,970,174, 5,982,937, 5,995,724, 6,002,795, 6,025,922, 6,035,103, 6,041,200, 6,065,041, 6,112,665, 6,116,707, 6,122,407, 6,134,018, 6,141,120, 6,166,821, 6,173,286, 6,185,335, 6,201,614, 6,215,562, 6,219,155, 6,219,659, 6,222,641, 6,224,048, 6,225,974, 6,226,419, 6,238,105, 6,239,895, 6,256,108, 6,269,190, 6,271,937, 6,278,901, 6,279,009, 6,289,122, 6,292,270, 6,299,063, 6,310,697, 6,321,133, 6,327,047, 6,327,050, 6,327,052, 6,330,071, 6,330,363, 6,331,899, 6,340,975, 6,341,017, 6,341,018, 6,341,307, 6,347,256, 6,348,978, 6,356,359, 6,366,918, 6,369,895, 6,381,036, 6,400,443, 6,429,949, 6,449,393, 6,476,927, 6,490,696, 6,501,565, 6,519,053, 6,539,323, 6,543,871, 6,546,364, 6,549,294, 6,549,300, 6,550,991, 6,552,815, 6,559,958, 6,572,293, 6,590,676, 6,606,165, 6,633,396, 6,636,326, 6,643,317, 6,647,149, 6,657,741, 6,662,199, 6,678,068, RE33,973, RE36,947, D341,131, D406,117, D416,550, D417,864, D419,185, D426,206, D439,851, D444,793.

商標

Bestcolor、ColorWise、Command WorkStation、EDOX、EFI、Fiery、Fiery ロゴ、Fiery Driven、 Rip-While-Print、Spot-Onは、米国特許商標庁および/またはその他諸国におけるElectronics for Imaging, Inc.の登録商標です。

AutoCal、AutoGray、Best、Bestロゴ、Changing the Way the World Prints、ColorCal、Device IQ、DocBuilder、DocBuilder Pro、DocStream、EFI ロゴ、EFICOLOR、EFI Color Profiler、EFI Production System、EFI ScanBuilder、Everywhere You Go、Fiery Driven ロゴ、Fiery X2、Fiery X2e、Fiery X2-W、Fiery X3e、FieryX4、Fiery ZX、Fiery Z4、Fiery Z5、Fiery Z9、Fiery Z16、Fiery Z18、Fiery Document WorkStation、Fiery Downloader、Fiery Driver、Fiery FreeForm、Fiery Link、Fiery Prints、Fiery Print Calibrator、Fiery Production System、Fiery Scan、Fiery ScanBuilder、Fiery Spark、Fiery Spooler、Fiery WebInstaller、Fiery WebScan、Fiery WebSpooler、Fiery WebStatus、Fiery WebTools、Intelligent Device managementロゴ、Memory Multiplier、NetWise、PrintMe、PrintMeロゴ、PrintMe Enterprise、PrintMe Networks、RIPChips、ScanBuilder、Splash、Splashロゴ、Unimobile、Unimobileロゴ、Velocity、Velocity Balance、Velocity Build、Velocity Design、Velocity Estimate、Velocity Exchange、Velocity OneFlow、Velocity OneFlowロゴ、Velocity Scan、VisualCalは、 Electronics for Imaging, Inc.の商標です。

Adobe、Adobe ロゴ、Adobe Illustrator、PostScript、Adobe Photoshop、Adobe PageMaker は Adobe Systems Incorporated の商標であり、一部管轄地域では登録されています。Apple、Apple ロゴ、AppleShare、AppleTalk、EtherTalk、LaserWriter、Macintosh は Apple Computer, Inc. の登録商標です。Microsoft、MS、MS-DOS、Windows は米国およびその他諸国における Microsoft の登録商標です。その他の用語や製品名は各社の商標や登録商標である場合があり、本書により承諾されています。

法律上の注意

ソフトウェアまたはユーザマニュアルに表示されるPANTONE®カラーは、Pantone, Inc(以下Pantone社)が定義するカラーと一致しないことがあります。正確なカラーを確認するには、最新のPANTONE カラー出版物を参照してください。PANTONE®およびその他Pantone社の商標はPantone社の所有物です。©Pantone, Inc.,2003

Pantone社は、Electronics for Imaging, Inc.の製品またはソフトウェアと併用する場合のみElectronics for Imaging, Inc.に認可するカラーデータおよび/またはソフトウェアの著作権所有者です。Electronics for Imaging, Inc.の製品またはソフトウェアを配付する場合を除いて、PANTONE カラーデータおよび/またはソフトウェアを他のディスクまたはメモリにコピーすることは禁止されています。

本製品には、Apache Software Foundation(http://www.apache.org/) により開発されたソフトウェアが組み込まれています。

限定権利条項(米国においてのみ適用)

防衛機関の場合：限定権利条項。使用、複写、開示は 252.227.7013 の技術データとコンピュータソフトウェアの条文の補助条項(c)(1)(ii) に規定した限定内容に従うものとします。

民間機関の場合：限定権利条項。使用、複写、開示は 52.227-19 の商業コンピュータソフトウェア限定権利の条文の補助条項(a) から(d) に規定した限定内容、および本ソフトウェアに関する Electronics for Imaging, Inc.の基準商業契約に規定した限定内容に従うものとします。文書に記載されていない権利は、合衆国の著作権法にもとづいて留保します。

使用許諾契約

重要。お客様へのお願い

プリンタの付属のCD-ROM には株式会社沖データが提供するプログラム（以下、OKI ソフトウェアという）とイー・エフ・アイ株式会社が提供するプログラム（以下、EFI ソフトウェアという）が含まれています。
パッケージを開封する前に下記ソフトウエア使用許諾契約書を必ずお読みください。
お客様がこのパッケージを開封された場合には、本契約に同意いただいたものとみなします。
もし、本契約の条項を承諾いただけない場合は、未開封のまま速やかにお客様が購入された販売店に返却してください。

株式会社沖データ ソフトウェア使用許諾契約

使用許諾契約
プリンタに付属のCD-ROMに含まれているプログラムおよびドキュメンテーションは株式会社沖データ（以下、沖データという）が提供するものです。プログラムおよびドキュメンテーション（以下、総称してOKIソフトウェアという）をお使いになる前に、以下の項目をお読み下さい。

プログラムをインストールした時点で、お客様は、沖データとの間で本契約が成立し、本契約条項の拘束を受けることに同意したものと見なされます。

1. 使用範囲
   お客様は、OKIソフトウェアに対応する沖データプリンタを所有する場合に限り、当該プリンタに直接またはネットワークを通じて接続される複数のコンピュータにプログラムをインストールして、OKIソフトウェアを使用することができます。また、お客様は、バックアップの目的としてOKIソフトウェアを一部複製することができます。

2. 財産権および義務
   （1）OKIソフトウェアおよびその複製物の著作権、版権、所有権は沖データまたは沖データのライセンサーにあります。OKIソフトウェアの構成、編成、コードは沖データの業務上の重要な機密事項及び機密情報にあたります。OKIソフトウェアは米国及び日本国の著作権法ならびに国際条約及びその使用される国において適用される法律の保護を受けており、書籍その他の著作物と同じに扱われなければなりません。
   （2）第1条に定めた複製を除いて、OKIソフトウェアの一部または全部の複製、貸与、レンタル、リース、譲渡、使用許諾することはできません。
   （3）お客様はOKIソフトウェアを、修正、改変、翻訳、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルしないことに同意します。
   （4）お客様には本契約で認められた権利を除き、OKIソフトウェアに関するいかなる権利も付与されません。

3. 期間
   （1）お客様へのOKIソフトウェアの使用許諾は、本契約が解除されるまで有効です。
   （2）お客様は、OKIソフトウェアおよびその複製物を全て破棄および消去することにより、本契約を解除することができます。
   （3）お客様が本契約の条件に違反した場合には、沖データは、お客様に対してライセンス契約の解除を行うことがあります。この様な解除が行われた場合には、お客様はOKIソフトウェアおよびその複製物の全てを破棄および消去し、OKIソフトウェアの使用を中止するものとします。

4. 保証
   （1）沖データ及び沖データのライセンサーは、本ソフトウェアに関して、以下のことを含む一切の保証をするものではありません。
   ・本ソフトウェアを使用する事によってお客様の要望する性能または結果が得られること。
   ・本ソフトウェアに瑕疵がないこと。
   ・第三者の権利を侵害していないこと。
   ・特定の目的に適合していること。
   （2）本ソフトウェアは、予告なく改良、変更することがあります。

5. 責任の限定
   沖データ及び沖データのライセンサーは、OKIソフトウェアによって生じる、いかなる直接的、間接的、派生的な損害、損失に対しても、沖データがたとえそのような損害の発生の可能性について知らされていたとしても、また、それらの損害についての請求が不法行為(過失を含むがこれに限定されない)に基づくものであれ、その他の如何なる法律上の根拠に基づくものであれ、適用法で認められる限り、お客様に対して一切責任を負わないものとします。また、OKIソフトウェアまたはOKIソフトウェアに関連して生じた、第三者からなされるいかなる請求についても、沖データ及び沖データのライセンサーはお客様に対して一切責任を負担しないものとします。

6. 準拠法及び輸出管理規制
   OKIソフトウェアについての使用許諾契約に関しては、契約の成立も含め日本法を準拠法とします。本契約は国際物品売買契約に関する国連条約には準拠しないものとし、その適用は明示的に排除されます。

もし、本契約の一部が無効で法的拘束力がないとされた場合には、本契約の他の部分の有効性には影響を与えず、他の部分は有効かつ法的拘束力をもつものとします。
OKIソフトウェアは、米国および日本国の輸出管理法、その他の関連法令・規則で禁止されている国へは輸出されないものとし、またかかる法令・規則で禁止されている態様で使用されないものとします。 お客様は、適切な米国 及び日本政府の輸出許可を得ずにOKIソフトウェアやOKIソフトウェアから作られた製品を輸出、再輸出しないことに同意します。もし、お客様がこの条項に違反された場合、自動的にこの契約は解除されるものとします。

7. 完全な合意
お客様は、本契約を読んでこれを理解したこと、および本契約がお客様に対するOKIソフトウェアのライセンスについて沖データとお客様との間の事前の口頭、書面またはその他の通信手段による一切の合意に優先するお客様と沖データとの間の完全かつ唯一の合意であることを確認します。また本契約に基づくお客様の義務は、本契約に基づいてライセンスされる権利の保有者すべてに対する義務を構成するものとします。

イー・エフ・アイ株式会社 ソフトウェア使用許諾契約

ソフトウェア使用許諾契約

本ソフトウェアをご使用になる前に必ず以下のソフトウェア使用許諾契約(以下、本使用許諾契約)をお読みください。EFIソフトウェア(以下、本ソフトウェア)を使用されるお客様は、法人/個人に依らず本使用許諾契約に同意する必要があります。本使用許諾契約は、EFIソフトウェアに関するお客様とElectronics for Imaging, Inc.(以下、EFI)との間の法的合意事項となります。本使用許諾契約に同意する場合、「同意する」をクリックしてください。同意しない場合、「同意しない」をクリックし、ソフトウェアのインストール、複製、使用をしないでください。

Windows Me/98用PostScript(R)プリンタドライバ、Windows NT4.0用 PostScript(R)プリンタドライバ、Windows 2000用PostScript(R)プリンタドライバ、Windows XP用 PostScript(R)プリンタドライバ、Job Monitor、Command WorkStation 4、ColorWise Pro Tools、Fiery Downloader、Fiery Printer Delete Utility、HotFolder、Fiery Spooler、CWS LE、WebTools、ICC profiles、PPD for OS 9 and X、Fiery Job Notes Plug InはEFIが提供するものです。

「同意する」ボタンをクリックし、または本ソフトウェアをインストール、複製、あるいは使用することにより、お客様は本使用許諾契約に従うべき義務を負うことになります。本使用許諾契約に従いたくない場合、「同意する」をクリックしないでください。また、本ソフトウェアをインストール、複製、あるいは使用しないでください。この場合、お客様は、お買い上げ日より30日以内にレシート等支払い証明を添付してお買上げ販売店に未使用の本ソフトウェアとその全同梱物を返却して、全額払戻しを受けることができます。

ライセンス
EFIは、お客様に、お買上げいただいた本ソフトウェアの使用について、本使用許諾契約の条項のみに従い、EFI製品説明書に明記されたとおりに、かつEFI製品説明書に明記された製品(以下、本製品)のみにつき、限定的、非独占的なライセンスを与えます。
本使用許諾契約における「本ソフトウェア」とは、EFIソフトウェアおよびEFIソフトウェアに関する一切の文書、ダウンロードしたもの、オンライン上のコンテンツ、バグフィックスプログラム、パッチ、リリース、リリースの注意事項を記載した文書、アップデートプログラム、アップグレードプログラム、テクニカルサポート提供物、およびその他の情報を意味します。本使用許諾契約の条項は、お客様によるこれらアイテムの一切の使用に適用があり、効力を及ぼします。ただし、アップデート、リリースまたはアップグレード時に、EFIは書面による追加契約事項を与えることがあります。
本ソフトウェアはライセンス供与されるものであり、販売されるものではありません。お客様は、EFI製品説明書に記載された使用目的でのみ、本ソフトウェアを使用できるものとします。お客様は、本ソフトウェアのレンタル、リース、サブライセンス、貸出し、またはその他の方法でソフトウェアを配付することはできません。また、本ソフトウェアを時分割サービス、サービス機関、または類似の形態で使用することはできません。
お客様は、本使用許諾契約にて許容される目的のためにバックアップまたはアーカイブ・コピーを1部作成することができますが、それ以外に本ソフトウェアまたはその一部について、いかなる複製も作成することはできません。ただし、いかなる場合であっても、本製品のコントローラボードまたはハードウェアの任意部分に含まれるソフトウェアについては、いかなる複製を作成することもできません。お客様は、本ソフトウェアのいかなる部分についても、ローカライズ、逆アセンブル、デコンパイル、解読、リバースエンジニアリング、ソースコード解読、改変、派生製品の作成、その他いかなる変更も、しないことに同意するものとします。

知的財産権
お客様は、本ソフトウェア、全てのEFI製品、およびその複製物、変更物、派生物についての、あらゆる知的財産権を含む全ての権利、所有権および利益は、EFIとその供給元のみが保有することを認識し、これに同意するものとします。本使用許諾契約で明示された限定的ライセンスを除いて、いかなる権利もライセンスも与えられません。お客様は、いかなる特許権、著作権、営業秘密、商標(登録、未登録を問わず)、またはその他の知的財産権も与えられません。お客様は、いかなるEFIの商標や商号またはそれらと類似したもしくは混乱を生じさせるようなあらゆるマーク、URL、インターネットドメイン名またはシンボルを、お客様ご自身、その関係会社または製品の商号として採用し、登録し、または登録を試みないことに同意するものとします。また、EFIやその供給元の商標権を損なうような、その他のいかなる行為をもしないことに同意するものとします。

守秘義務

本ソフトウェアは、EFI専有の秘密情報であり、お客様は他に配布・開示することはできません。ただし、次の場合に限り、本使用許諾契約上のお客様の一切の権利を他人または他の法人に譲渡することができます。(1)その譲渡が、適用ある全ての輸出関連法規ー米国輸出管理法を含む米国の法律および規則を含みますーにより許され、(2)お客様が、複製物、アップデート、アップグレード、媒体、印刷文書、および本使用許諾契約を含めた本ソフトウェアの全てを第三者に譲渡する場合で、(3)譲渡の際、お客様がバックアップ、アーカイブを含む本ソフトウェアの一切の複製物を保持せず、(4)譲渡先の第三者が本使用許諾契約の全条項に同意する場合。

ライセンスの終了

本ソフトウェアを許可なしで使用、複製、開示した場合、あるいは本使用許諾契約について何らかの不履行があった場合、本ライセンスは自動的に終了し、EFIは他の法律上の救済手段も利用可能となります。ライセンス終了の場合、お客様は本ソフトウェアまたはその構成部分の複製物の全てを破棄しなければなりません。その場合でも、本ソフトウェアに関する守秘義務、保証の免責、責任限定、救済手段、損害、準拠法、裁判管轄権、裁判地、およびEFIの知的財産権に関する本使用許諾契約の全ての条項は、ライセンスの終了後も効力を失いません。

限定保証および免責

EFIは、本ソフトウェアがEFI製品説明書の記載どおりに使用される限り、お客様が受領されてから90日間は、本ソフトウェアが実質的にEFI製品説明書の記載どおりに動作することを保証します。EFIは、本ソフトウェアがお客様の特定の要求に適合すること、本ソフトウェアが停止せず、常に安定して動作を継続し、耐停止でエラーが無いことまたソフトウェアの欠陥は全て修正されることについて、何らの表明も保証もしません。また、EFIは、本ソフトウェア以外の本製品もしくはサービス、または第三者製の製品(ハードウェアまたはソフトウェア)もしくはサービスについて、明示的にも黙示的にも、その性能または信頼性を保証するものではありません。なお、EFIが容認する第三者製の製品以外の製品をインストールした場合、本保証は無効となります。EFIが認める場合を除き、本ソフトウェアまたはEFI製品を使用、改変、および/または修復した場合、本保証は無効となります。さらに、事故、悪用、誤使用、異常使用、ウイルス、ワーム、その他類似の外的要因により本ソフトウェアに問題が起こった場合も、本限定保証は無効になります。
適用される法により許容される最大の範囲で、上記の明示的限定保証(「限定保証」)を除き、EFIは本ソフトウェア、本製品、および/またはいかなるサービスーそれが明示的であれ黙示的であれ、法令に基づくものであれ、本使用許諾契約上のいかなる条項に基づくものであれまたはお客様とのコミュニケーションに基づくものであれーについても、表明または保証をせず、かつお客様はそれを受けることができません。EFIは特に、安全性、商品性、特定目的に対する適合性および第三者の権利侵害がないことを含む全ての黙示的保証、表明および条件から免責されます。ソフトウェアおよび/または製品が停止しないこと、常に安定して動作を継続すること、耐停止でエラーがないことについては、いかなる表明も保証もありません。適用される法により許容される最大の範囲で、一切のソフトウェア、本製品、サービスおよび/または適用ある保証に関するお客様の唯一かつ排他的な救済手段、かつEFIおよびその供給元の責任の全ては、EFIの選択による(1)限定保証に適合しないソフトウェアの修理もしくは交換、または(2)限定保証に適合しないソフトウェアの代金(もし支払われていれば)の返還です。本項に規定された場合を除いて、EFIおよびその供給元は、代金払戻し、返品、交換、または同等の機能を提供するソフトウェアの提供は一切行いません。

責任の限定

適用される法により許容される最大の範囲で、お客様による本ソフトウェア、本製品、サービス、および/またはこの使用許諾契約に関するEFIまたはその供給元に対する一切の請求は、それがどのような提訴内容である場合でも(契約責任、不法行為責任、法定責任またはそれ以外のいずれであるかを問わず)、お客様が当該EFIソフトウェアに対して支払った対価を超えないことに同意するものとします。お客様はこの金額が、本使用許諾契約の目的に適うものであることに同意し、またこの補償額は、EFIおよびEFIの供給元による不法行為または過失によって生じた損失や損害の公正かつ合理的な見積額であることに同意するものとします。適用される法により許容される最大限の範囲で、代替ソフトウェア、代替製品、代替サービスの調達にかかる費用、利益の逸失またはデータの損失、第三者からの請求、その他特別な、間接的、依存的、結果的、懲罰的または付随的損害については、それが本ソフトウェア、本製品、サービスおよび/または本使用許諾契約によって引き起こされたものであっても、EFIおよびその供給元は一切責任を負いません。この責任限定は、たとえEFIおよびその供給元が、そのような損害の可能性を知らされていた場合であっても適用されます。お客様は、本ソフトウェアの価格がこのリスク配分を反映したものであることに同意するものとします。お客様は、上記の責任限定および免責事項が本使用許諾契約において最も重要な条項であり、これら2つの条項にお客様が同意しない限り、EFIは本ソフトウェアの使用許諾を行わないことを認識した上で同意したものとします。
米国の州や司法管轄区域の中には、本使用許諾契約に定める責任の除外および/または限定の一部または全部を許さないところもあるため、上記の責任除外・限定は、お客様に適用がないかもしれません。
デラウェア法人である Adobe Systems Incorporated(以下、Adobe社)(住所:345 Park Avenue, San Jose, California 95110-2704)は、本使用許諾契約が本ソフトウェア、フォントプログラム、書体、商標などお客様の使用に関する条項を含む限りにおいて、本使用許諾契約における第三者たる受益者です。以上の条項はAdobe社の利益のために明示的に設けられたものであり、EFIに加えAdobe社がこれを行使することができます。Adobe社は、本項に記載されたいかなるAdobe社製ソフトウェアおよび技術に関しても、お客様に対して一切の責任を負わないものとします。

輸出制限

本ソフトウェアおよびEFI製品には、米国輸出管理法を含む米国における輸出関連の法律および規則が適用されます。本使用許諾契約で付与されるライセンスは、お客様が、米国における輸出関連法規を含む適用ある全ての輸出関連法規に従うことを前提としています。お客様は、これらの法規に違反する形で、本ソフトウェアおよびEFI製品のいかなる一部も、使用、開示、配布、譲渡、輸出、再輸出しないことに同意するものとします。

政府による使用
アメリカ合衆国政府による本ソフトウェアの使用、複製、開示は、FAR 12.212またはDFARS 227.7202-3 -227.7202-4に定める規制に服し、かつ米国連邦法で要求される範囲において、FAR 52.227-14、Restricted Rights Notice(June 1987) Alternate III(g)(3)(June 1987)またはFAR 52.227-19(June 1987)に定める最小限の限定権利(minimum restricted rights)に服します。技術データは、本使用許諾契約に従って提供される技術データの範囲内で、FAR 12.211およびDFARS 227.7102-2によって保護され、またアメリカ合衆国政府により明示的にに要求される範囲で、DFARS 252.227.7015(November 1995)およびDFARS 252.227-7037(September 1999)に定める限定権利に服します。上述の規定が修正または他の法規により上書きされる場合、その後の同等の規定が適用されるものとします。契約者名はElectronics for Imaging, Inc.です。

準拠法および管轄権
本使用許諾契約の当事者の権利および義務は、あらゆる意味において排他的に、カリフォルニア州法に準拠するものとします。従って、カリフォルニア州住民間でカリフォルニア州内において成立する契約に対する法律が適用されます。国際物品売買契約に関する国連条約およびその他同様の条約は本使用許諾契約には適用されないものとします。本ソフトウェア、本製品、サービス、および/または本使用許諾契約に関連する全ての紛争については、お客様は、カリフォルニア州サンマテオ郡における州裁判所および北カリフォルニア連邦裁判所のみを所轄裁判所とすることに同意するものとします。

一般条項
本使用許諾契約はお客様と Electronics for Imaging, Inc.との完全合意　を表したものであり、本ソフトウェア、本製品、サービス、本使用許諾契約が規定するその他の事項に関する他のやり取りや広告に優先するものです。本使用許諾契約の一部の条項が無効でも、それらの条項は法的強制力を有するのに必要な範囲で修正されたとみなされ、また、それ以外の部分は完全な効力を有するものとします。

ご不明な点がありましたら、EFIのWebサイト(www.efi.com)を参照ください。
Electronics for Imaging, Inc.
303 Velocity Way
Foster City, CA 94404
USA

イー・エフ・アイ株式会社ソフトウェア使用許諾に関する付記

イー・エフ・アイ株式会社ソフトウェア使用許諾で言及している「EFIソフトウェア」には、EFI社製品に含まれているオープンソースソフトウェアは含まれておらず、また、イー・エフ・アイ株式会社ソフトウェア使用許諾は、オープンソースソフトウェアには適用されません。製品に含まれるオープンソースソフトウェアの使用は、イー・エフ・アイ株式会社ソフトウェア使用許諾とは別に提供され、プリンタソフトウェアCDのOpenSrcフォルダ内のReadme.txtに記載のオープンソースソフトウェア使用許諾に準拠しなければなりません。本製品を使用することは、プリンタソフトウェアCDのOpenSrcフォルダ内のReadme.txtに記載のオープンソースソフトウェア使用許諾に示される条件を受諾したことになります。
オープンソースソフトウェア使用許諾の条件を受諾できない場合、購入日から30日以内以内に領収証と共に製品を購入された販売店にお持ちください。購入時にお支払いになった代金を全額返金致します。

以上

※Adobe Reader の使用について
Adobe Readerは沖データがアドビシステム社との契約に基づきお客様に配布するものです。お客様はAdobe Readerに含まれているエンドユーザー使用許諾契約書に同意することにより、アドビシステム社からAdobe Readerの使用を許諾されることになります。

※商標について
Adobe、Adobe ReaderおよびPostScriptは米国およびその他の国におけるAdobe Systems Incorporatedの商標または登録商標です。
Windows、Windows NT は米国内及び各国で登録されたMicrosoft Corporationの登録商標です。
Macintoshは米国Apple Computer, Inc.の登録商標または商標です。
ColorWise、Command WorkStation、EFI、Fieryは、米国特許商標庁および/またはその 他諸国におけるElectronics for Imaging, Inc.の登録商標です。
Fiery Downloader、Fiery Spoolerは、Electronics for Imaging, Inc.の商標です。
その他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

目次

1 カラーの管理

本章では、ColorWiseカラー管理システムにおける設定方法と、ジョブに合わせた設定の変更方法について説明します。また、PostScriptレベル2およびPostScriptレベル3対応プリンタドライバの役割、WindowsとMacOS用プリンタドライバを使用したカラー管理について説明します。

ColorWiseの主機能

ColorWiseは、MLPro9800PS内蔵のカラー管理システムです。初心者および熟練者両方のニーズに対応し、あらゆるジョブで優れたカラー出力を得られる、柔軟なシステムです。デフォルト設定のままでも、WindowsやMac OS上のほとんどのアプリケーションから、適切にカラー出力を行います。

MLPro9800PSから常に一貫した出力を得られるようにするには、定期的にMLPro9800PSのキャリブレーションを行う必要があります。Fiery ColorWise ProToolsではカラー測定デバイスを使用して、簡単にキャリブレーションを行う機能を提供しています。

- DIC、Euroscale、SWOPなどのオフセット印刷標準カラーをCMYKカラーでシミュレートすることができます。
- PANTONEなどのスポットカラーを実際のPANTONEを使用したオフセット印刷に近いカラーで出力できます。
- 「カラーの表現」の設定で、ビジネスグラフィックに適した鮮やかなカラー出力、写真など連続調画像に適したグラデーションの滑らかな出力、絶対カラーメトリックでの出力など、用途に応じて、RGBカラーの出力を変えることができます。
- RGBカラーデータのソース情報を定義することにより、モニタでより正確にカラーを表示し、ソースの情報がなくても適切にカラー変換を行えます。
- RGBデータを変換する際、プリンタの色の再現域に合わせたり、他のプリントデバイスの色の再現域に合わせることができます。実際に他のプリントデバイスに接続し出力しなくても、さまざまなプリントデバイスからの出力結果を比較できるので便利です。またさまざまな出力条件で、RGBデータがどのように出力されるかを比較することもできます。
- カラー印刷業界標準のICCプロファイルに対応しています。ICCプロファイルをMLPro9800PSにダウンロードすると、オフセット印刷やプリンタからの出力をシミュレーションできます。また、特定のモニタやスキャナのカラーに合わせて出力することもできます。プリンタ用にICCプロファイルをカスタマイズすることもできます。

・MLPro9800PS-EでColorWise ProToolsのCalibrator、ColorEditor、Profile Manager、Color Setupを使用するには、オプションのハードディスクが必要です。
・ColorWise ProToolsのSpot-OnはMLPro9800PS-X及びMLPro9800PS-Sで利用できます。

カラー管理オプション

MLPro9800PSの出力するカラーを次の方法で管理できます。

オフィスアプリケーションでは通常RGBのデータを作成し、デザイン関係のアプリケーションではCMYKデータを作成するのが一般的です。また、PANTONEなどのスポットカラーを含むデータもよく使われます。同一ファイルの同一ページ上に、RGB、CMYK、スポットカラーが混在する場合もあります。MLPro9800PSでは、さまざまな色空間の混在したファイルを出力する際にもそれぞれの色空間の出力を適正に調整することを可能にしています。

MLPro9800PSカラー管理システムのカラーデータ変換設定は、プリンタドライバのColorWise設定で行います。

PostScript 3では、ソース色空間がRGBである場合、「RGBソースプロファイル」の設定が、すべてのCIEABC空間のカラーに適用されます。また、Adobe Photoshopのポストスクリプトカラー管理を利用して、CIE DEFG形式のCMYKデータをMLPro9800PSに送った場合、通常RGBデータのみに適用されるMLPro9800PSの「カラーの表現」の設定が、CMYKのデータにも適用されます。

ColorWiseオプションのほとんどは、Fiery ColorWise ProToolsのColor Setupでデフォルト値を設定できます。また、それらはMLPro9800PSにジョブを送る際に、プリントオプションで上書きできます。製品出荷時のプリンタの初期設定値の詳細については、『設定管理ガイド』および『PS印刷ガイド』の「付録A」を参照してください。

ColorWiseオプションを設定する

プリンタドライバColorWiseオプションについて説明します。

CMYKシミュレーションプロファイル

「CMYKシミュレーションプロファイル」オプションは、MLPro9800PSでオフセット印刷の校正出力、または他のプリントデバイスのシミュレーションを行う場合に指定します。CMYKデータがどの印刷標準または他のプリントデバイス用に色分解されたかにより、「CMYKシミュレーションプロファイル」オプションで選択すべきプロファイルが異なります。このオプションはCMYKデータのみに適用されます。

- DIC（EFI）－ 大日本インキ化学工業株式会社の「DIC標準色」に近い色空間を定義します。DIC用に色分解された画像を出力する場合に選択します。なお、詳細は、本マニュアルの付録Cを参照ください。
- TOYO Offset Coated 2.0 － 東洋インキ製造株式会社の東洋インキ標準色コート紙に近い色空間を定義します。なお詳細は、本マニュアルの付録Dを参照ください。
- JMPA ver.2（EFI）－ CMYKカラーが雑誌広告基準カラー用に近い色空間を定義します。
- Japan Color 2001 type1 － Japan Color用に近い色空間を定義します。
- Euroscale（EFI）－ ヨーロッパの印刷標準に近い色空間を定義します。Euroscale用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- SWOP-Coated（EFI）－ 米国の印刷標準に近い色空間を定義します。SWOP-Coated用に色分解された画像を出力する場合に選択します。
- シミュレーション-1～シミュレーション - 10 － カスタムシミュレーションに使用します。たとえば、ICCプロファイルなどのカスタム色分解で変換した画像には、MLPro9800PS上の対応するプロファイルを選択します。

ICCプロファイルを使用して色分解された画像を適切にシミュレートするには、MLPro9800PSに同一のプロファイルをダウンロードする必要があります。プロファイルのダウンロードの手順は、48ページ「プロファイルのダウンロード」を参照してください。

- PSドライバでは、「双方向通信」が選択してある場合、「CMYKシミュレーションプロファイル」に、MLPro9800PSにダウンロードされている各カスタムプロファイル名が表示されます。
- PSドライバでは、Fiery ColorWise ProToolsで作成したシミュレーション用のカスタムシミュレーションプロファイルをすべて表示することができます。カスタムシミュレーションの数は、MLPro9800PSのHDDの空き容量によっても制限されます。

- なし － シミュレーションは適用されません。キャリブレーションは適用（反映）されます。

- ColorWiseオフ－ シミュレーションは適用されません。また、キャリブレーションも適用（反映）されません。

CMYKシミュレーション方法

「CMYKシミュレーションプロファイル」で「なし」、「ColorWiseオフ」以外を選択した場合のシミュレーション方法を指定します。

- クイック － CMYKそれぞれに1種類のトランスファー曲線が適用され、出力濃度のみが調整されます。
- フル（ソースGCR）－ 各カラーの出力濃度に加え色相調整用のカラーメトリック変換も行われるため、より正確なシミュレーションが適用されます。また、「CMYKシミュレーションプロファイル」指定のブラックインクの情報が利用されます。ここで指定したプリントデバイス用のカラー校正を印刷する場合に、この項目を選択します。
  「フル（ソースGCR）」ではブラックカラーが別に調整され出力されます。スキャンまたはAdobe Photoshopなどのアプリケーションでブラック生成（UCR* / GCR）を使用し色分解されたデータ用に選択してください。

- **フル（出力GCR）** ー「フル（ソースGCR）」と同様のシミュレーション方法が適用されます。このオプション項目では、「出力プロファイル」指定のブラックインクの情報が利用されます。 MLPro9800PSで最終出力する場合にこの項目を選択します。

  「フル（出力GCR）」では、K版がいったんCMY版に組み込まれた後、出力プロファイルによりCMYKに分版されるため、CMYとKの比率は保持されません。ブラックのテキストとグラフィックはCMYK4色を使った合成ブラックで出力されます。この方法では、ColorSyncなどICCプロファイルを用いた一般的なカラーマッチングとの互換性が高くなります。

RGBソースプロファイル

「RGBソースプロファイル」オプションは、書類内のRGBデータのソース色空間を定義する際に使用します。ここで指定する設定は、他のカラー管理システムで指定したソース色空間のプロファイルを書き換えます。一般的に使用されるモニタ色空間のファイルは、ドライバやFiery ColorWise ProToolsのProfile Managerに入っています。スキャナのプロファイルなど特定色空間を使用する場合は、Fiery ColorWise ProToolsのProfile Managerを使用してダウンロードしてください。

「RGB ソースプロファイル」オプションで「なし」以外を選択すると、MLPro9800PSでRGBデータの処理をコントロールできます。この場合MLPro9800PSは、データに設定されたソース色空間の定義や、アプリケーションやドライバのカラー管理システムのプロファイルを書き換えます。たとえば、MacOSのColorSyncの設定は、「RGB ソースプロファイル」設定で書き換えられます。他の場所で指定したソース色空間を書き換えたくない場合は、ここで「なし」を選択してください。

以下に、MLPro9800PSのRGBソース色空間について説明します。

- **EFIRGB**ー EFI定義の色空間です。ファイルにRGBデータの詳細な情報がない場合に最適です。
- **sRGB（PC）** ー Windows 対応モニタ用のソース色空間を指定します。
- **Apple 標準** ー MacOS 対応モニタ用のソース色空間を指定します。
- **カスタム** ー RGB ソースプロファイル用の値（「ガンマ*」、「RGB 色度座標*」および「白色点*」オプション）を個別に指定できます。
- **ソース- 1 ～ソース- 10** ー MLPro9800PSにダウンロードされているRGBプロファイルのソース色空間を指定します（RGBソースプロファイルのダウンロードについては、「第3章： Fiery ColorWise ProTools」を参照してください）。
  Windows用PSドライバで「双方向通信」が選択されている場合、各プロファイル名のメニュー欄に、MLPro9800PSにダウンロードされている各カスタムプロファイル名が表示されます。MacOS用ドライバでは、カスタムプロファイルは「ソース - 1」～「ソース - 10」と表示されます。
- **なし** ー アプリケーションなどで指定したソース色空間を書き換えたくない場合に選択します。
  この場合ファイルの種類によって出力カラーが微妙に異なります。たとえば、RGB EPSとRGB TIFFに対して、MLPro9800PSカラー管理システムは異なる変換方法を適用します。
  - ソース色空間情報を含むPostScript RGB データ（RGB EPS）には、「カラーの表現」オプションでの指定（17ページ参照）に基づくカラー変換が適用されます。
  - 非PostScript RGBデータ（RGB TIFF）およびソース色空間情報のない PostScript RGBデータ（RGB EPS）には、通常のUCR/BG（ Under Color Removal/Black Generation）変換が適用されます。

RGB色分解

このオプションはRGBデータを、シミュレーション用のCMYKまたはプリンタ用のCMYKのどちらのCMYK色空間に分解するかを指定します。

「出力」または「シミュレーション」を指定します。「出力」は、RGBデータをプリンタの色空間に変換します。「シミュレーション」は、オフセット印刷機など別のプリントデバイスの色空間のシミュレーションを行います。たとえば、高質なICCプロファイルで出力できるプリントデバイスがある場合、そのプリントデバイスをシミュレートした出力をMLPro9800PSから得られます。

RGB色分解機能は、特にオフセット印刷するジョブの校正出力で重宝します。RGBデータを実際にCMYKに変換する前に、複数のプロファイルで出力して結果を比べることにより、最良の方法でCMYKへ変換することが可能になります。

「RGB 色分解」オプションは、「出力プロファイル」または「CMYK シミュレーションプロファイル」オプションと併用してください。

- **出力** ―「出力プロファイル」オプションで「プリンタの初期設定」が選択されている場合は、RGBデータはプリンタのCMYK色空間に変換されます。「出力- 1」〜「出力- 10」が選択されている場合は、プリンタ用に作成もしくは編集された出力プロファイルのCMYK色空間に変換されます。
- **シミュレーション** ― RGBデータは、「CMYKシミュレーションプロファイル」オプションで選択されているCMYKシミュレーションプロファイルによる処理と、出力プロファイルによる処理によってCMYK色空間に変換されます。

色分解の組合せ

一部のアプリケーションで作成した色分解データを、このオプションを使用し組み合わせるかどうかを指定します。この機能を使用すると、色分解フィルムを使ったプレス印刷の試し刷りができます。これにより、オーバープリントやトラッピング、その他の色刷り印刷の効果を、色分解フィルムの作成前に確認し校正することができます。また、低解像度のマスターファイルを印刷するかわりに、デスクトップカラーセパレーション(DCS)形式ファイルを組み合わせた、フル解像度の印刷ができます。

特色の分版合成はできません。

このオプションは、QuarkXPressやAdobe PageMaker などでサポートされています。このオプションでの設定を有効にするには、ジョブ印刷時にアプリケーションで、コンポジットではなく色分解、またはDCS 形式の印刷を指定する必要があります。

Adobe Photoshop、Adobe Acrobat Professionalで分版出力したジョブは、色分解の組合せを「オン」に設定して印刷しても、分版合成で出力することができません。

カラーの表現

「カラーの表現」オプションでは、カラー変換に使用するレンダリング方法を指定します。MLPro9800PSは、印刷業界標準のICCプロファイルに対応した4つのカラーの表現を提供しています。各々のカラーの表現は用途別に設計されていて、それぞれ色の再現域へのマッピング方法が異なります。次に各レンダリング方法とその適切な使用方法を説明します。

MLPro9800PS カラーの表現（CRD）	内容	用途	対応する ICC レンダリング方法
連続調	画像の正確な色よりも色調関係の保持を優先させます。プリンタの色再現域外の色の出力は通常「ビジネスグラフィック」に比べて彩度の低いものになります。	連続階調の写真画像（スキャン画像やフォト CD 画像を含む）。	「イメージ」、「コントラスト」
ビジネス グラフィック	鮮やかな彩度の高いカラーを作成します。このカラーの表現は出力カラーとモニタ表示カラーを正確にマッチさせようとはしませんが、鮮やかな濃度の高いカラーを提供します。同時に、連続階調の写真画像に対しては、「連続調」と同じ方法でマッピングします。	プレゼンテーション資料用のアートワークやグラフ。同じページに写真画像が混在していてもかまいません。	「鮮やかさ」、「グラフィック」
相対カラー メトリック	RGBソースプロファイルで定義された白色点値とは異なる相対的な白色点を使用します。たとえば、モニタ上の青みがかった灰色は、灰色で出力されます。裁ち切りしないジョブを出力する際、縁がハッキリするのを防ぐことができます。	モニタ表示カラーを正確に出力したい場合、書類内の白色に用紙の白色を使用したい場合。PostScriptカラー管理で、ソース色空間の定義を伴うCMYKのデータに適用してシミュレーションを行いたい場合にも使用します。	相対カラー メトリック
絶対カラー メトリック	RGBソースプロファイルで定義された白色点値を使用します。たとえば、モニタ上の青みがかった灰色は、青みがかった灰色そのままの色味で出力されます。	モニタ表示カラーを正確に出力したい場合や裁ち切りしないジョブを出力する際に縁がハッキリしてもかまわない場合に使用します。PostScriptカラー管理でソース色空間の定義を伴うCMYKのデータに適用してシミュレーションを行いたい場合にも使用します。	絶対カラー メトリック

出力プロファイル

印刷ジョブのすべてのデータにここでの設定が適用されます。デフォルト出力プロファイルは、MLPro9800PSのカラー特性を記述したデータ、およびキャリブレーションターゲットで構成されています。

特別なカラー効果を得るために、Fiery ColorWise ProToolsのColor Editorを利用して、デフォルト出力プロファイルを編集(カスタマイズ)することができます(41ページ参照)。この場合、印刷ジョブのすべてのデータに新しいカスタム出力プロファイルが適用されます。キャリブレーションターゲットは、MLPro9800PSに基づいて作成されているため、プロファイルのみを変更してもキャリブレーションターゲットには影響ありません。ただし必要であれば、キャリブレーションターゲットの最大濃度値(Dmax)を独立して編集できます。

Fiery ColorWise ProToolsのProfile Managerを使用して、独自の出力プロファイルをMLPro9800PSにダウンロードすることもできます(48ページ参照)。ダウンロードされた出力プロファイルは、最初はデフォルトキャリブレーションターゲットと関連して使用されますが、上述のように、キャリブレーションターゲットの最大濃度値(Dmax)は編集可能です。

Windows用PSドライバでは、「双方向通信」が選択してある場合、「出力プロファイル」のメニュー欄に、MLPro9800PSにダウンロードされている各プロファイル名が表示されます。MacOS用ドライバでは、カスタムプロファイルは「出力 - 1」〜「出力 - 10」と表示されます。

スポットカラーマッチング

このオプションでは、スポットカラーを出力プロファイルを使用して変換するか、アプリケーションの定義に従って変換するかを指定します。

- **オン** ー MLPro9800PS内蔵の色分解テーブルをもとに、MLPro9800PSの色の再現域内でできるだけ正確にスポットカラーをCMYKデータに変換します(色分解テーブルは、出力プロファイルごとに作成されます)。MLPro9800PSでは、Fiery ColorWise ProToolsのSpot-Onで定義されたスポットカラー用のCMYK値が使用されます。

  注 内蔵の色分解テーブルで定義されていないスポットカラーはCMYKカラーとして処理されます。

- **オフ** ー アプリケーションでの定義に従って、スポットカラーはCMYKデータとして処理されます。この時CMYKシミュレーションの設定が反映されます。
  スポットカラーを含んだジョブの場合、印刷標準用シミュレーションを適用しない限り、「スポットカラーマッチング」で「オン」を選択します。印刷標準用シミュレーションを出力する場合は、「スポットカラーマッチング」で「オフ」を選択してから、「CMYKシミュレーションプロファイル」で適切なプロファイルを選択します(14ページ参照)。

  注 「スポットカラーマッチング」での設定は、分版の出力には適用されません。

スポットカラーマッチングとPANTONE Coatedカラー参照

「スポットカラーマッチング」での設定に応じて、PANTONE Coatedカラー参照ファイル(Pantone.ps)を異なるカラーで出力できます。

- **オン** ー PANTONE Coatedカラー参照を出力する際、MLPro9800PSは内蔵の色分解表、またはSpot-Onで定義されたCMYK値をもとに、プリンタの色の再現域内でできるだけ正確にPANTONEカラーをCMYKデータに変換します。各PANTONEカラーパッチの下にPANTONEカラー番号が表示されます。

- **オフ** ー PANTONE Coatedカラー参照を出力する際、MLPro9800PSはPantone Inc.推奨(かつPANTONEカラーを提供するアプリケーションでの定義)のCMYKカラー値で出力します。各PANTONEカラーパッチの下には、カラー変換に使用されるCMYKカラー値とPANTONEカラー番号が表示されます。

メモ　PANTONE Coatedカラー参照ファイル(Pantone.ps)は、プリンタソフトウェアCD-ROMの[Color Files]フォルダに格納されています。

テキストと画像に純ブラック使用

このオプションで「オン」を選択すると、RGB（R：0、G：0、B：0）またはCMYK（C：0%、M：0%、Y：0%、K：100%）で定義されたブラックが、ブラックトナーのみで出力されます。このオプションは、ブラックのテキストとベクトルグラフィックのみに効果があります。

- ほとんどのジョブでは、「オン」の設定で優れた出力を得られます。
- 使用するトナーがブラックトナー1種類なので、版ずれ、トナーのはみ出し、ハーフトーン印刷でのモアレなどの問題を避けることができ、鮮やかな出力が得られます。
- ブラックを含むグラデーションを使用したジョブを出力する場合など、このオプションを「オフ」に設定した方がよいジョブもあります。
- 「ブラックオーバープリント」オプションが「テキスト」または「テキストと画像」の場合、「テキストと画像に純ブラック使用」は自動的に「オン」に設定されます。

次の表は、このオプションでの設定が定義の異なるブラックにどのように作用するかを表します。

ブラックを入力	純ブラックのテキストと画像	
	オン	オフ
RGB	ブラックのトナーのみでブラックを出力します。濃度はプリンタのキャリブレーション状況により異なります。	デフォルトのプロファイルでは、すべてのトナーを使用して4色による深みのあるブラックを出力します。
CMYK		CMYK シミュレーションがブラックのチャネルの情報を保持するため、ブラックのトナーのみでブラックを出力します。濃度はCMYKシミュレーション方法の設定とプリンタのキャリブレーション状況により異なります。
スポットカラー		スポットカラーシミュレーションがブラックのチャンネルの情報を保持するため、ブラックトナーのみでブラックを出力します。濃度はCMYKシミュレーション方法の設定とプリンタのキャリブレーション状況により異なります。

「テキストと画像に純ブラック使用」での設定は、分版合成出力のみに適用され、分版の出力には適用されません。

アプリケーションのなかには、印刷ジョブをMLPro9800PSに送る前に、RGBで定義されたブラックを4色のCMYKブラックに変換するものがあります（QuarkXPressなど）。このブラックには、「テキストと画像に純ブラック使用」オプションは適用されません。

ハーフトーンスクリーン

「ハーフトーンスクリーン」オプションを設定してジョブを印刷した際、カラーの問題(「画像のマゼンタが強すぎる」など)が発生した場合は、ジョブの印刷時に「ハーフトーンスクリーン」で設定した項目でMLPro9800PSのキャリブレーションが行われているかどうかを確認してください。キャリブレーション済みのMLPro9800PSから印刷した連続調のページをハーフトーンページと比較する場合は、特に重要です。

通常「ハーフトーンスクリーン」を変更すると、プリンタのカラーの出力が変化します。MLPro9800PSでは、Fiery ColorWise ProToolsのCalibratorで、キャリブレーションを行うためのハーフトーンスクリーンを選択できます。異なる「ハーフトーンスクリーン」オプションでの設定と、「用紙の種類」などの設定を反映したプリントデバイスのカラー出力の状態は、それぞれのキャリブレーションセット測定値として保持されています。そのため、ジョブの印刷時に、キャリブレーションを行った時の設定とそのキャリブレーションに対応する出力プロファイルをプリントオプションで指定することにより、最良のカラー出力結果を得ることができます。

ユーザ定義の「ハーフトーンスクリーン」が指定された場合は、その設定と「用紙の種類」などの設定を反映したプリンタのカラーの出力状態についての情報がMLPro9800PSには保持されていません。このため、カスタムハーフトーンスクリーンを使用してジョブを印刷する場合は、そのジョブを印刷する前に、そのハーフトーンスクリーンと「用紙の種類」などのオプションを設定して、キャリブレーションを行っておく必要があります。

カスタムハーフトーンスクリーンを使用する場合は、それに対応するカスタム出力プロファイルを使用する必要があります。ただし、頻繁にキャリブレーションを行う場合(たとえば、一日に一回)でも、次のカスタム出力プロファイル作成の手順は、何回も行う必要はありません。

- カスタムハーフトーンスクリーンはMLPro9800PS-Xでのみ使用できます。
- アプリケーションでハーフトーンスクリーンの線数や角度を指定して印刷する場合、PSプリンタドライバで「ハーフトーンスクリーン」に「アプリケーション定義」を選択する必要があります。なお、その機能はMLPro9800PS-Xでのみ使用できます。
  アプリケーションでハーフスクリーンの線数や角度を指定する場合、印刷解像度ごとにプリンタとして動作可能は最小値があります。1200×1200dpi、1200×600dpiでは80線、600×600dpiでは60線が最小値となっています。

カスタムハーフトーンスクリーンを使用してMLPro9800PS-Xのキャリブレーションを行うには：

本マニュアルの第2章、「カラーキャリブレーション」を参照してください。

ブラックオーバープリント

「ブラックオーバープリント」オプションではRGB（R：0、G：0、B：0）またはCMYK（C：0%、 M：0%、Y：0%、K：100%）で定義されたブラックのテキストまたはテキストとグラフィックを、カラー背景上にオーバープリント（重ね出力）するかどうかを指定します。

- **テキスト**ー ブラックのテキストはカラー背景上に重ねて出力されます。この場合、テキストと背景の間の隙間や版ずれの問題を回避することができます。
- **テキストと画像**ー ブラックのテキストとグラフィックはカラー背景上に重ねて出力されます。この場合、テキストとグラフィックの背景の間の隙間や版ずれの問題を回避することができます。
- **オフ** ー ブラックのテキストまたはテキストとグラフィックのカラー背景部分をノックアウト（くり抜き）します。

このオプションで「テキスト」または「テキストと画像」を選択すると、「テキストと画像に純ブラック使用」オプションも自動的に「オン」に設定されます。

PostScriptのアプリケーションのなかには、データをMLPro9800PSに送る前に、アプリケーション側でブラックオーバープリントを行うものもあります。

このオプションがどのように作用するかを、淡い青色背景にブラックのテキストを出力する場合を例にとって説明します。背景の青はC：40%、 M：30%、Y：0%、K：0%、テキストはC：0%、 M：0%、Y：0%、K：100%とします。

- **テキスト、テキストと画像** ー ブラックのテキストが背景の淡い青色の上に重ねて出力されます。テキストの部分は、C：40%、 M：30%、Y：0%、K：100%のカラーとなります。シアンとマゼンタのトナーがテキストの縁で止まらないので、版ずれが起こらずテキストを鮮やかに出力します。テキストのブラックをR：0、G：0、B：0で定義しても同じ結果が得られます。
- **オフ** ー 背景に使われるシアンとマゼンタのトナーがテキストの縁で止まり、テキストはブラックのトナーのみ（C：0%、 M：0%、Y：0%、K：100%）で出力されます。プリンタの精密さの限界により、版ずれが起きてしまう場合があります。

用紙シミュレーション

MLPro9800PS-Xでのみ利用できます。

用紙の色を考慮してCMYK 色空間の調整を行うかどうか指定します。

- **オン** ー 用紙の色を考慮して印刷時にCMYK値の調整を行います。
- **オフ** ー 印刷時のカラー変換時に用紙の色を考慮しません。通常のCMYK値処理が適用されます。

Windowsカラー管理プリントオプションの設定

ここでは、 Windows用PSプリンタドライバ を使用して、カラー管理のためのプリントオプションを指定する方法を説明します。MLPro9800PS提供のプリンタドライバは、PostScript 3に対応しているので、MLPro9800PSのカラー機能を活用できます。設定を始める前に、『セットアップ編ーWindowsをお使いの方ー』の記述に従って、ドライバのセットアップが完了していることを確認してください。

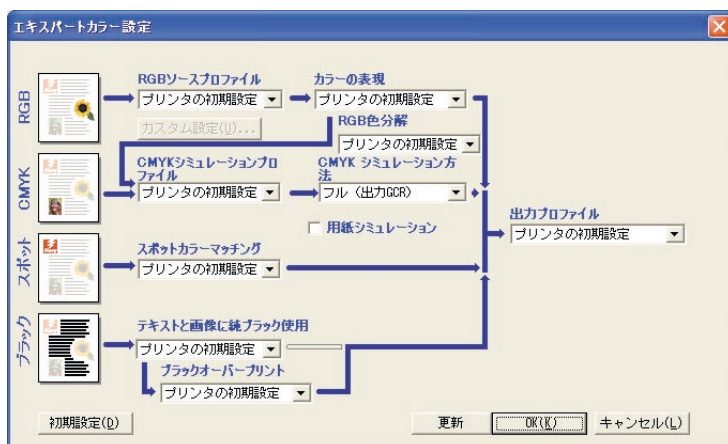
「Fiery 印刷」タブでプリントオプションを設定します。プリンタドライバのオプションを表示する方法については、『PS印刷ガイド』を参照してください。

ColorWiseオプションを設定するには：

❶ ［ColorWise］オプションバーをクリックします。

❷ ［ColorWise］でオプションを設定します。

❸ ［エキスパート設定］ボタンをクリックします。

各オプションの内容は、「ColorWise オプションを設定する」（14 ページ）を参照してください。

［RGB ソースプロファイル］で［カスタム］を選択した場合は、［カスタム設定］をクリックし、「ガンマ」、「白色点」、「RGB 色度座標」の値を指定し［OK］をクリックします。

「プリンタのプロパティ」画面の［インストール可能オプション］タブで、「双方向通信」オプションが選択されている場合は、画面右下に［更新］が表示され、このボタンをクリックするとMLPro9800PSの現設定内容が表示されます。［キャンセル］をクリックすると現設定内容は表示されません。

Macintoshプリンタドライバ(MacOS 9.2〜9.2.2)

ここではMacOSプリンタドライバ を使用して、カラー管理用プリントオプションを設定する方法を説明します。設定を始める前に、『セットアップ編ーMacintosh、UNIX、Linuxをお使いの方ー』の記述に従って、ドライバのセットアップが完了していることを確認してください。また、MacOSからの印刷に関する詳細は、『PS印刷ガイド』の第2章を参照してください。

Adobe PageMaker、Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、QuarkXPressなどのアプリケーションでは、プリンタドライバに依存せず、アプリケーション上で、カラー管理オプションを設定することもできます。

カラー管理プリントオプションの設定

プリントオプションは、プリンタドライバの画面内の各設定欄で選択します。

プリンタドライバからのオプションを表示するには、アプリケーションで[ファイル]-[プリント(印刷)]を選択します。[一般設定]を含むプルダウンメニュー内の[カラー設定]を選択して表示される画面では、[カラー]-[カラー/グレースケール]を選択します。

このオプションを選択してMLPro9800PSから出力すると、ColorWiseがすべてのカラー変換を行います。ほとんどの場合、このオプションで適切に出力することができます。

通常は「カラー:カラー/グレースケール」をおすすめしますが、その他のカラー設定オプション(「白黒」以外)の詳細は以下の通りです。

- ColorSync カラーマッチング ー コンピュータ上でカラー変換を行うときに使用します。このオプションは、 MLPro9800PSなどPostScript レベル 2またはPostScript 3対応プリンタでも使用できますが、PostScript レベル 1プリンタで使用するためのものです。MLPro9800PSへの出力時にこのオプションを使用する場合は、必ず「プリンタプロファイル」でユーザ指定のICCプロファイルまたはMLPro9800PS用ICCプロファイルを選択してください。このオプションは、アプリケーションによっては使用できません。使用可能なアプリケーションでも、ColorWiseの機能を不使用にしなければならないので、このオプションはなるべく使用しないでください。
- PostScript カラーマッチング ー このオプションは MLPro9800PSなど PostScript レベル 2以降のプリンタで使用するためのものです。MLPro9800PSに内蔵されているカラーの表現(CRD)または印刷ジョブと共にダウンロードされるカラーの表現を適用して、MLPro9800PSでカラー変換を行うときに使用します。

「PostScriptカラーマッチング」を指定した場合、使用するアプリケーションによっては、プリンタドライバが印刷ジョブのCMYKデータに、CMYKソース定義を添付します。この場合、CMYKのデータは、MLPro9800PS でカラーの表現(CRD)の設定に従って再分解されます。分解後の色空間は、プリントオプションのRGB色分解の設定によって異なります。「RGB色分解」を「シミュレーション」に設定すると、「CMYKシミュレーションプロファイル」と「シミュレーション方法」の設定に従って、CMYKデータが出力されます。「RGB色分解」を「出力」に設定すると、CMYKデータは、選択されている出力プロファイルのCMYK色空間で出力されます。

ColorWiseオプションを含む、プリンタ固有のプリントオプションを表示するには、プルダウンメニュー内の[プリンタ固有機能]を選択します。プリントオプションを設定するには、オプション右側に表示されるプルダウンメニューからオプション項目を選択します。各オプションの内容は、「ColorWiseオプションを設定する」(14ページ)を参照してください。
ここでの設定の組合せを頻繁に使用する場合は、[設定を保存]をクリックして設定を保存することをおすすめします。

Mac OS X(10.2.4～10.4.2)でのプリントオプションの設定

Mac OS Xの場合、次の手順に従って、プリンタドライバの画面内の各設定欄でプリントオプションを選択します。

プリンタドライバからのオプションを表示するには、アプリケーションで[ファイル]-[プリント(印刷)]を選択します。[印刷部数と印刷ページ]を含むプルダウンメニュー内の「プリンタ固有機能」を選択します。

「ColorWiseオプションを設定する」(14ページ)を参照して、必要に応じてプリントオプションを設定します。

2 カラーキャリブレーション

本章では、キャリブレーションの目的と手順について説明します。

カラーキャリブレーションを行うと、常に一貫したカラーで出力できます。
Fiery ColorWise ProToolsのCalibratorと分光測色計を併用して測定値に基づいたMLPro9800PSのキャリブレーションを行えます。

Fiery ColorWise ProTools提供の高度な機能(プロファイルの編集、カスタムプロファイルの作成など)については、「第3章：Fiery ColorWise ProTools」を参照してください。測定値をインポートする方法については「付録B」を参照してください。

WindowsおよびMac OS用Fiery ColorWise ProToolsの機能と画面は、基本的には同じです。本章ではWindowsの画面を表示します。

キャリブレーション

キャリブレーション曲線は、実際の測定値とキャリブレーションセットに基づいて生成されます。

- **測定値**：MLPro9800PSの実際のカラー状況を表し、この値は分光測色計から入力されます。
- **キャリブレーションセット**：用紙の種類に対応したターゲット値を表します。出力プロファイルには、理想カラー状況を表すターゲット値が含まれています。

キャリブレーションを適用すると、実際の測定値とターゲット値の差異が補正されます。

Fiery ColorWise ProToolsまたはMLPro9800PSの操作パネルを使用してMLPro9800PSをキャリブレートすると、キャリブレーションセットが MLPro9800PSに格納されます。このキャリブレーションセットは、出力プロファイルに関連づけられることにより機能します。出力プロファイルにキャリブレーションセットがカスタム指定されていない場合は、デフォルトキャリブレーションセットが適用されます。

キャリブレーションの種類

MLPro9800PSでは、以下のキャリブレーションを利用することができます。

キャリブレーションの種類	メモ
Fiery ColorWise ProTools Calibrator	オプションの分光測色計（EFI Spectrometer）と、ColorWise ProToolsを使用してキャリブレーションを行ないます。
Visual Cal	操作パネルから実行し、目視でキャリブレーションを行ないます。分光測色計を用いた場合と比較すると精度が悪くなります。

ほとんどのジョブは、デフォルトのキャリブレーションセットで適切に出力できますが、MLPro9800PSでは、印刷ジョブの種類に応じてキャリブレーションセットを選択し、ジョブごとにキャリブレーションをカスタマイズすることもできます。

キャリブレーションを行うと以下が可能になります。

- MLPro9800PSのカラー再現能力を最大化します。
- カラー品質が常時一定になるようにします。
- どのMLPro9800PSを使用しても、一貫したカラー出力が得られます。
- PANTONEカラーや他の名称付きカラーシステムなどのスポットカラーを使用する時に、より正確なカラーで出力します。
- ColorWiseの「カラーの表現」および「CMYKシミュレーションプロファイル」を使用したり、ICC対応プロファイルを使用する際に、それらの最大効果が得られるようにMLPro9800PSを最適化します。

メモ　プリンタを調整しているとしても、トナー濃度は湿度や温度の影響を受けますし、時間経過とともに変わる可能性があります。定期的にキャリブレーションを行えば、日々の変化に対処できます。

MLPro9800PSは、4色の各トナーカラーの測定値とターゲット値を比較しキャリブレーション曲線を生成します。キャリブレーション曲線は一種のトランスファ関数です。トランスファ関数とは数学用語で、データの遷移を表現するものです。トランスファ関数は通常、出力 / 入力曲線としてグラフ化されています。ターゲット値は指定出力プロファイルとプロファイルに関連づけられたキャリブレーションセットに基づいて決まります。

MLPro9800PSのキャリブレーションでは、最終出力に使用する用紙の種類に関係なく、常にOKIカラーページプリンタ用紙エクセレントホワイトを使用します。エクセレントグロスやその他の用紙では、キャリブレーションできません。

測定

測定ファイルにはプリンタのトナー濃度が数値化されて入っています。この数値は単色のシアン、マゼンタ、イエロー、ブラックの濃淡をプリンタで出力したものを測定して作成された値です。

測定ファイルを作成するには、Fiery ColorWise ProToolsから測定用のパッチページをプリンタに印刷します。次にコンピュータに接続された測定計器を使用して、このパッチページを測定します。新測定値は自動的にMLPro9800PS に格納されます。

出力プロファイルとキャリブレーションセット

出力プロファイルとキャリブレーションセットは、好ましいキャリブレーション結果を定義します。MLPro9800PSでは出力プロファイルと複数のキャリブレーションセットが提供されています。MLPro9800PSのキャリブレーションを行う際、これらのキャリブレーションセットの中から目的に応じて選択します。出力プロファイルの詳細については、18ページを参照してください。

キャリブレーションのスケジューリング

印刷ジョブの量によりますが、通常、少なくとも1日に1回MLPro9800PSをキャリブレートすることをおすすめします。一貫したカラーを維持することが非常に重要な場合、またはプリンタが温度や湿度のかなりの変化にさらされる場合は、数時間ごとにキャリブレーションを行ってください。また、出力品質の変化に気づいた時も、キャリブレーションを行ってください。
印刷ジョブを複数バッチに分割する場合は、必ず各バッチの印刷前にキャリブレーションを行ってください。プリンタの点検修理後も MLPro9800PS のキャリブレーションを行う必要があります。ただし、点検修理の直後はまだプリンタの状態が不安定になる場合があります。そのため、50枚ほど印刷してからキャリブレートすることをおすすめします。

注 非常に微妙な温度や湿度の変化が、プリンタの出力に影響します。これらの影響をできるだけ避けるために、窓際や直射日光のあたる場所や冷暖房装置の近くを避けてプリンタを設置してください。印刷用紙も同様に気温や湿度に影響されます。印刷用紙は涼しく温湿変化の少ない場所に保管してください。

1. カラー表やカラー参照ファイルなどの標準カラーページを印刷します。

   メモ カラー表は、Command WorkStation/Command WorkStation LEまたはMLPro9800PSの操作パネルから印刷できます。カラー参照ファイルは、MLPro9800PSプリンタソフトウェアCD-ROMの[Color Files]フォルダで提供されています。これらのページには、シアン、マゼンタ、イエロー、ブラックの彩度100%のパッチと淡色パッチとが載っています。肌色色調の画像は比較には最適です。また、別々の時に印刷したページを保存しておいて比較することができます。これらの色調に目に見える変化がある場合は、MLPro9800PSのキャリブレーションを行ってください。

2. カラー表またはカラー参照ファイルが、適切に出力されたことを確認します。カラーパッチは、2～5%の淡色パッチでも、肉眼で見ることができます。100～0%にかけて、パッチのカラーは徐々に淡くなります。もし最高濃度のパッチ（各色100%）が時間経過とともに薄れていくようであれば、そのページを担当サービスに見せて、プリンタの出力が改善されるような調整が可能かどうか検討してください。

キャリブレーション状況の確認

ジョブを印刷する前にMLPro9800PSが前回キャリブレートされた日時や使用キャリブレーションセット名を確認することができます。次の方法で最新のキャリブレーション情報を確認してください。

- Command WorkStation/Command WorkStation LEまたはMLPro9800PSの操作パネルから、PSテストページを印刷します。
- Fiery ColorWise ProToolsの「Calibrator」をクリックします。「キャリブレーションセット」にキャリブレーション実施日、担当者名などが表示されます。

Fiery ColorWise ProToolsでキャリブレーションする

Fiery ColorWise ProToolsのCalibratorから測定値に基づくキャリブレーションが簡単に行えます。

キャリブレーションを変更すると、全ユーザの印刷ジョブに影響します。このため、許可された担当者だけがキャリブレーションを行えるようにすることをおすすめします。システム管理者用パスワードの設定に関する詳細は、『設定管理ガイド』を参照してください。

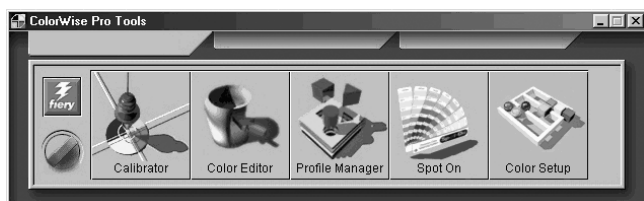
- キャリブレーションの変更はRIP済みジョブにも適用されます。Command WorkStation/Command WorkStation LE、Fiery Spoolerで印刷ジョブを再RIPする必要はありません。
- 本書では、EFI Spectrometer ES-1000を「EFI Spectrometer」と表記します。EFI SpectrometerはEFI社製の分光測色計です。

Calibratorを使用する前には、必ずプリンタの操作パネルで濃度の補正を行ってください。操作方法はプリンタ機能編の「濃度の補正をする」をご覧ください。

Calibratorを使用するには：

キャリブレーションを実施する直前に、必ずプリンタの自動濃度補正を実行してください。
通常は、自動濃度補正は定期的に自動的に実行されますが、キャリブレーションを行う前には手作業で実行します。
自動濃度補正を実行するには以下の手順で行います。

プリンタメニューに入り、「キャリブレーション」の表示になるまで進みます。そこで設定ボタンを押し、「自動濃度補正実行」を選択します。

❶ Fiery ColorWise ProTools を起動し、キャリブレーション対象の MLPro9800PS に接続します。

注 MLPro9800PS-Eではオプションのハードディスクが必要です。

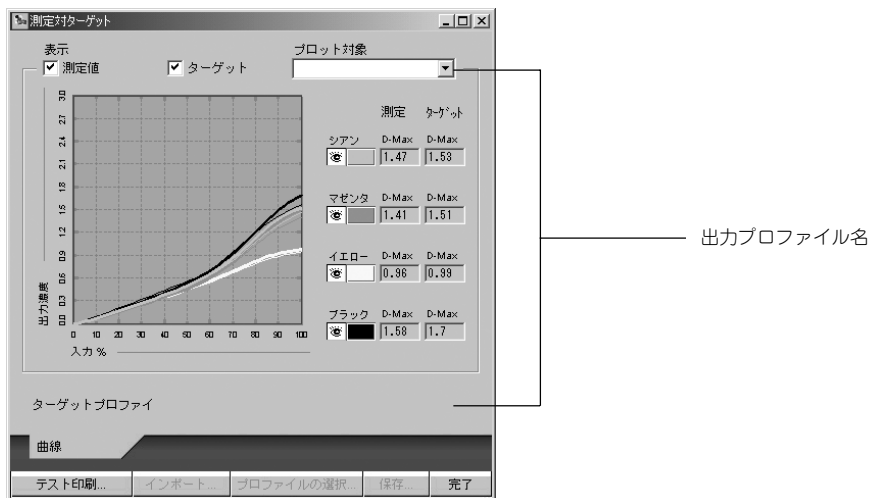
Fiery ColorWise ProTools の設定についての詳細は、『応用編』を参照してください。

❷ ［Calibrator］をクリックします。

［測定方法を選択］に測定に使用する測定器の名称が表示されます。
「プリント設定を確認」ではキャリブレーションを適用するハーフトーンスクリーンを選択します。

エキスパートを選択します

[エキスパート]を選択すると、エキスパート向けの設定ができます。必要に応じて設定します。

- 「ページを印刷(オプション)」では、新測定値と既存のキャリブレーションセットを使用したキャリブレーションを検証するために、比較ページを印刷できます。
- 「測定値を表示(オプション)」を使用すると、現在の測定値のグラフと測定値対ターゲット値のグラフを表示できます。
- ユーザ専用の比較ページを別途作成することもできます。まずアプリケーションでPostScriptまたはEPS(Encapsulated PostScript)ファイルを作成し、「CALIB.PS」と名付けます。それから、アプリケーションまたはFiery Downloaderを使用してMLPro9800PSの待機キューにダウンロードまたは印刷します。すでに待機キューに入っている任意のジョブの名称を、Command WorkStation/Command WorkStation LEから「CALIB.PS」に変更することもできます(『ジョブ管理ガイド』参照)。

2つ以上の出力プロファイルで同じターゲット値を使用する場合、「プロット対象」のメニューが上図の右上の部分に表示され、同じターゲット値を使用する出力プロファイルの名称が列挙されます。出力プロファイルを選択すると、選択した出力プロファイルとターゲット値のグラフが表示されます。
各出力プロファイルで異なるターゲット値を使用する場合は、プロファイルを換えるとグラフも変化します。

デフォルトキャリブレーション測定値への復帰

以下の手順でキャリブレーション測定値を工場出荷値に復帰できます。

出荷時のキャリブレーション測定値に復帰するには：

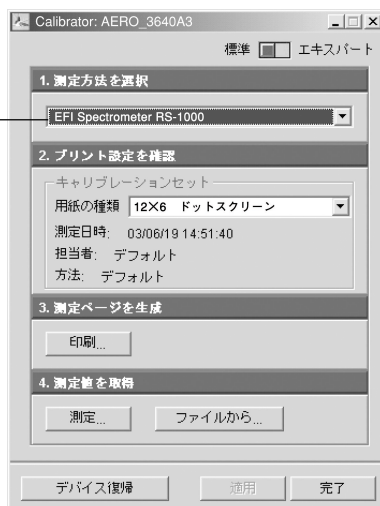
1. Fiery ColorWise ProTools を起動し、［Calibrator］をクリックします。
2. ［デバイス復帰］をクリックします。
   デフォルトキャリブレーションを出荷時のキャリブレーションに復帰する、というメッセージが表示されます。
3. ［OK］をクリックし、出荷時のキャリブレーションに復帰します。

注 現在選択されているキャリブレーションセットだけが、出荷時のキャリブレーションに戻ります。

EFI Spectrometer使用のキャリブレーション

以下の手順に従って、EFI Spectrometerを使用するキャリブレーションを行います。
EFI Color Profilerの詳細については、「付録A：カラー測定計器」およびEFI Color Profilerの取扱説明書を参照してください。

EFI Spectrometerを使用してキャリブレートするには：

1. Fiery ColorWise ProTools を起動し、MLPro9800PS に接続します。
2. ［Calibrator］をクリックします。

3. 「測定方法を選択」で［EFI Spectrometer ES-1000］を選択します。

❹ ［プリント設定を確認］でスクリーン設定を選択します。

注 このキャリブレーションを適用するには、このキャリブレーションセットを1つ以上の出力プロファイルに関連づける必要があります。ただし、デフォルトのキャリブレーションセットは、自動的にデフォルトの出力プロファイルに関連づけられているため、新たに関連づける必要はありません。キャリブレーションはスクリーンごとにそれぞれ行います。使用するスクリーンのすべてに対しそれぞれ行ってください。

❺ 「プリント設定を確認」で用紙の種類を選択します。

❻ ［測定ページを生成］で［印刷］をクリックします。

❼ 「プリントオプション」画面で項目を選択し、［印刷］をクリックします。

「ページの種類」では、「34ソート済みパッチ」、「21ソート済みパッチ」、「34ランダムパッチ」、または「21ランダムパッチ」を選択します。

「ページの種類」と「用紙サイズ」は連動しています。たとえば「ページの種類」で「34ソート済みパッチ」を選択すると、「用紙サイズ」では「A3/タブロイド」が表示されます。「21ソート済みパッチ」を選択すると、「A4/レター」が表示されます。

「入力トレイ」で適切な項目を選択します。

測定ページを手差しトレイから出力する場合は、「入力トレイ」で「手差し」を選択してください。

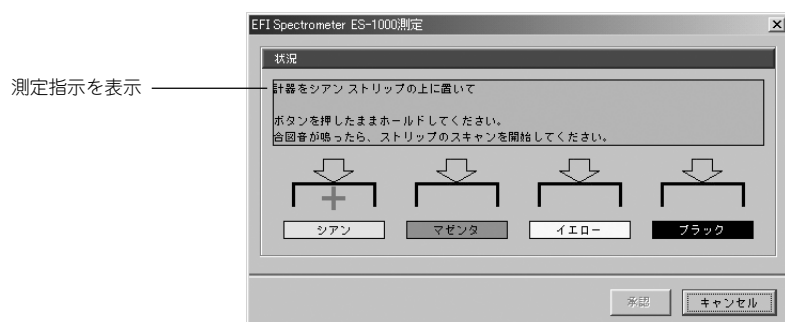
❽ 「測定値を取得」で［測定］をクリックします。

「用紙サイズ」には、手順❼で選択したサイズが表示されます。

❾ ページの種類と用紙サイズを確認し、［測定］をクリックします。

「情報」画面が表示されます。

⑩ EFI Spectrometer ES-1000 をキャリブレーションドック（62 ページ）に置いて、［OK］をクリックします。

「EFI Spectrometer ES-1000 測定」画面が現れ、「状況」に測定のの指示が表示されます。

正確な測定結果を得るために、測定ページの下に白紙を数枚敷いて測定ページ以外の色が混入しないようにしてください。

⑪ EFI Spectrometer ES-1000のアパーチャ（計器露光部分）を、指定されたカラーストリップの開始部分の横の白い場所に配置します。

⑫ 測定ボタンを押したままで、合図音が鳴るのを待ちます。

メモ Windows対応コンピュータで合図音を聞くには、サウンドカードとスピーカがインストールされている必要があります。

⑬ 合図音が鳴ったら、EFI Spectrometer ES-1000をゆっくりと同一速度でスライドさせて、ストリップを測定します。

⑭ ストリップ内の全パッチを測定し、EFI Spectrometer ES-1000 のアパーチャがカラーストリップ最後の横の白い部分に来たら、指を測定ボタンから離します。

パッチの測定が正しく行われると、カラー名の横にチェックマークが表示され、次に測定するカラーの上に十字マークが表示されます。

⑭ 上記の手順を繰り返し、すべてのカラーストリップを測定します。

注 測定は、画面に表示された順序で行う必要があります。

⑯ 全ストリップの測定が完了したら、［承認］をクリックします。

⑰ 「Calibrator」画面で［適用］をクリックし、新キャリブレーション測定値を適用します。

⑱ 「情報」画面で［OK］をクリックします。

これでキャリブレーション作業が完了しました。

カスタムハーフトーンスクリーンや、普通紙以外を使用してMLPro9800PS-Xのキャリブレーションを行うには：

キャリブレーションの測定ページをColorWise ProToolsからではなく、グラフィック系アプリケーションから以下の手順で印刷します。

❶ キャリブレーションの測定に使用する計器を準備します。

❷ プリンタソフトウェア CD-ROM をセットし、［ColorFiles］-［JAPANESE］-［Custom Halftone Calibration Files］フォルダを開きます。

注 Macintoshの場合は「Mac Color Files¥JAPANESE¥CustomHalftone Calibration Files」フォルダを開きます。

❸ キャリブレーションの測定ページを印刷するアプリケーションのフォルダを開きます。

Adobe Photoshop から測定ページを印刷する場合は、「Adobe Photoshop」を、その他の場合は「Other Applications」を選択してください。

これらのフォルダには、複数の計器用に異なる用紙サイズのキャリブレーション用の測定ページ（EPS 形式）が含まれています。

❹ 使用する計器と用紙サイズ用の EPS ファイルを選択します。

これらのファイルは最終シートサイズに合わせて準備されています。アプリケーションでファイルを配置する際は、「画像がクリップされる」という警告は無視して、マージンなしで配置してください。

注 これらのファイルをアプリケーションで配置した後で印刷する際にアプリケーション側でカラーマッチング（カラーマネージメント）が働かないように設定してください。

❺ アプリケーションで新規ファイルを開きます。

❻ EPS ファイルを書類に配置します。

この書類をカスタムキャリブレーション用の測定ページとして使用します。

実際の書類の印刷をするときに使用するカスタムハーフトーンスクリーンや、用紙タイプや用紙厚と同じドライバ設定を行ってこの測定ページを印刷します。ただし、「CMYK シミュレーションプロファイル」オプションでは「ColorWise オフ」を選択しておく必要があります。これにより、キャリブレーションの適用されないページを印刷することができます。また、測定ページの印刷に使用する紙は、実際の書類の印刷をするときに使用する紙と同じものを使います。

注 印刷する際は、必ずPSドライバを使用してください。PCLドライバを使って印刷すると、正しいCMYKの出力をすることができません。

❼ この測定ページを、その他の実際に印刷したい書類を印刷する際に使用するプリントオプション（「ハーフトーンスクリーン」や「印刷品位」を含む）の設定で印刷します。

注 「CMYKシミュレーションプロファイル」オプションでは「ColorWiseオフ」を選択しておく必要があります。これにより、キャリブレーションの適用されないページを印刷することができ、2重にキャリブレーションが働くことを防ぎます。

メモ この場合、CMYK値のパッチを「CMYKシミュレーションプロファイル」で「ColorWiseオフ」を選択して印刷するため、多くのColorWiseの機能が反映されないファイルが印刷されることになります。キャリブレーションの時間を短縮し、またその信頼性を増すには、プリントオプションを設定してから、この測定ページを PostScript ファイルに保存してください。以後は、キャリブレーションを行う際にこの PostScript ファイルをCommand Work Station等を使ってプリンタに直接送信してください。このファイルをMLPro9800PSの待機キューに保存しておいて、キャリブレーションを行うときに、Command Work Stationから再印刷をさせると、キャリブレーションの時間をさらに短縮できます。

❽ **Fiery ColorWise ProToolsのColor Editorでこの測定ページの印刷解像度と同じ解像度を持つ出力プロファイルを開きます。**

カスタムハーフトーンスクリーンを使わずに内蔵のハーフトーンスクリーンを使って印刷した場合、この測定ページを印刷したときと同じ解像度、同じハーフトーンスクリーンを持った出力プロファイルを開きます。例えば、内蔵の出力プロファイル、「Fiery 3640A3 12x6 Dot v1F」の、12x6は1200×600dpiを表し、プリンタドライバでは「高精細（多階調）」に相当します。「Dot」はドットスクリーンを表します。

Color Editorについての詳細は、「第3章：Fiery ColorWise ProTools」を参照してください。

❾ **カスタムハーフトーンスクリーンを表す名前を付けて、出力プロファイルを別名で保存します。**

❿ **Fiery ColorWise ProToolsのProfile Managerで、この出力プロファイルを適切なキャリブレーションセット項目に関連づけます。**

Profile Managerについての詳細は、「第3章：Fiery ColorWise ProTools」を参照してください。

⓫ **Fiery ColorWise ProToolsのCalibratorを使用して、キャリブレーションを行います。**

注 Calibratorメイン画面の「3.測定ページを生成」での「印刷」ボタンはクリックしないで、そのまま「4.測定値を取得」に進み、上の手順で印刷または保存した測定ページを使用してパッチを測定してください。

操作パネルからのキャリブレーション

VisualCalを使用すると、操作パネルからMLPro9800PSのキャリブレーションを行うことができます。システム管理者用パスワードが設定されている場合は、キャリブレーション時にそのパスワードが必要となります。

操作パネルの使用方法は、『設定管理ガイド』を参照してください。

VisualCal使用のキャリブレーション

操作パネルからVisualCalを使用しキャリブレートするには:

MLPro9800PS操作パネルで、「A4/レター」を選択します。

測定ページを手差しトレイから出力する場合、用紙を手差しトレイに入れ、操作パネルで適切な用紙サイズを指定する必要があります。

1. 「使用可能」が表示されていることを確認し、メニューボタンを押し「機能」メニューを表示します。
2. 「キャリブレーション」を選択します。
   パスワードの入力を促された場合は、パスワードを入力してから、「OK」を選択します。
3. 「キャリブレーション：キャリブレーション設定」を選択します。
4. 「キャリブレーション方法」画面でキャリブレーションの方法（「標準」、「エキスパート」）を選択します。
   「エキスパート」を選択すると確認用印刷が出力できます。
5. 「キャリブレート」を選択します。
6. キャリブレートするスクリーンを選択します。
   デフォルトは「12×6　ドットスクリーン」です
7. 測定ページを印刷するために、「はい」を選択します。
   測定ページが印刷されます。
8. VisualCal の測定ページに印刷されている使用方法に従って、「ブラック開始」「ブラック終了」「シアン開始」「シアン終了」「マゼンタ開始」「マゼンタ終了」「イエロー開始」「イエロー終了」「30%マッチ」に番号を入力します。
9. 次に「グレーバランス印刷」を行います。「はい」を選択します。

キャリブレーションの削除

MLPro9800PSの操作パネルからキャリブレーションを削除できます。ただし、新たにキャリブレーションを行うと、既存のキャリブレーションと置き換わるので、通常削除処理は必要ありません。

操作パネルからキャリブレーションを除去するには：

1. MLPro9800PS の操作パネルで「キャリブレーション」画面を表示します。
2. ［キャリブレート削除］を選択します。
3. 確認を促す画面で、［はい］を選択します。

   既存のキャリブレーション曲線が削除され、デフォルトキャリブレーション測定値に復帰します。

3 Fiery ColorWise ProTools

Fiery ColorWise ProToolsはカラー管理用に次のツールを提供します。

- Calibrator
- Color Editor
- Profile Manager
- Spot-On
- Color Setup

本章では、Color Editor、Profile Manager、Spot-On、Color Setupの使用方法を説明します。

- WindowsとMac OS用Fiery ColorWise ProToolsの機能と画面は、基本的には同じです。本章ではWindowsの画面を表示します。
- MLPro9800PS-EでCalibrator、ColorEditor、Profile Manager、Color Setupを使用するにはオプションのハードディスクが必要です。
- Spot-OnはMLPro9800PS-X及びMLPro9800PS-Sで利用できます。
- Mac OSでは、Fiery ColorWise ProToolsを起動した状態ではプリンタへの印刷データの送信速度が低下する場合があります。

Fiery ColorWise ProToolsの接続の設定を行うには

初めてFiery ColorWise ProToolsを起動するときには、プリンタへの接続を設定する必要があります。

❶ Fiery ColorWise ProTools を起動します。

❷ 「プリンタデバイス選択」画面で［追加］をクリックします。

❸ 「サーバ追加」画面でプリンタ情報を入力し、［追加］をクリックします。

ニックネーム：プリンタ用の名前を入力します。この名前はいわゆるニックネームでどんな名前でもかまいません。この名前には次の7文字と全角文字は使用できません。

［ ］_ " ' < スペース > <Tab>

プロトコル：「プロトコル」メニューからTCP/IPを選択します。

サーバ名：プリンタのIPアドレス（またはDNS名）を入力します。

新デバイス：プリンタのデバイス名「3640A3」を入力します。

❹ ［OK］をクリックします。

「プリンタデバイス選択」画面の「使用可能サーバ」にプリンタが表示されます。プリンタの名前（ニックネーム）、[]ないには選択されたプロトコルが表示されます。2番目の行にはデバイス名が表示されます。

❺ ［3640A3］を選択して、［選択］をクリックします。

プロファイルを編集する（Color Editor）

Color Editorはシミュレーションプロファイルおよび出力プロファイルをカスタマイズするためのツールです。このツールは、Fiery ColorWise ProToolsメイン画面から「Color Editor」をクリックするか、またはProfile Manager画面から「編集」をクリックして起動します。

ソースプロファイルの編集はできません。

シミュレーションプロファイルの編集用には、次の編集モードが用意されています。

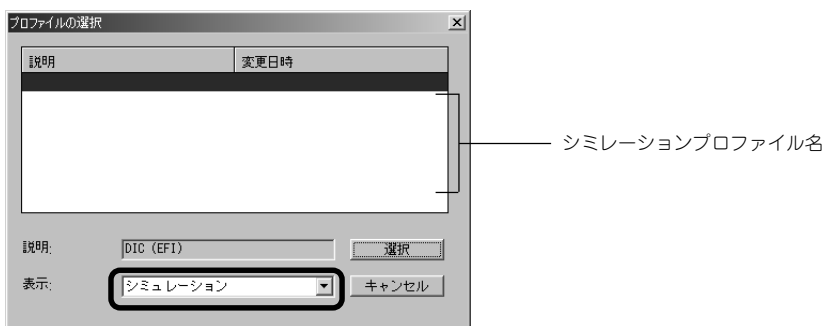
- **マスター** ー カスタムマスターシミュレーションプロファイルを作成します。シミュレーション方法や出力プロファイルにかかわらずすべての印刷ジョブに影響します。
- **「フル（ソースGCR）」、「フル（出力GCR）」、「クイック」** ー カスタムリンクシミュレーションプロファイルを作成します。選択したシミュレーション方法や出力プロファイルの種類によって、同一ジョブに対して異なる結果をもたらします。カスタムリンクシミュレーションプロファイル作成に使用された出力プロファイルとシミュレーション方法をジョブ用に選択すると、ジョブにはこのリンクシミュレーションプロファイルが自動的に適用されます。カスタムリンクシミュレーションプロファイルのない出力プロファイルやシミュレーション方法を選択すると、マスターシミュレーションプロファイルが自動的に適用されます。

「クイック」は出力濃度のみを調整します。「フル（ソースGCR）」または「フル（出力GCR）」は、出力濃度に加えて色合いも調整します。
出力プロファイルの編集用には、次の編集モードが用意されています。

- **カスタム**ー出力プロファイルを編集して、カスタムプロファイルを作成、保存します。
- **濃度（%）**ー出力プロファイルに入っているキャリブレーションのターゲット値を濃度（%）で表示します。ここでキャリブレーションターゲットを編集することはできませんが、新しいターゲットを取り込むことができます。

マスターモードまたはカスタムモードでプロファイルを編集するには：

❶ Fiery ColorWise ProTools を起動し、［Color Editor］をクリックします。

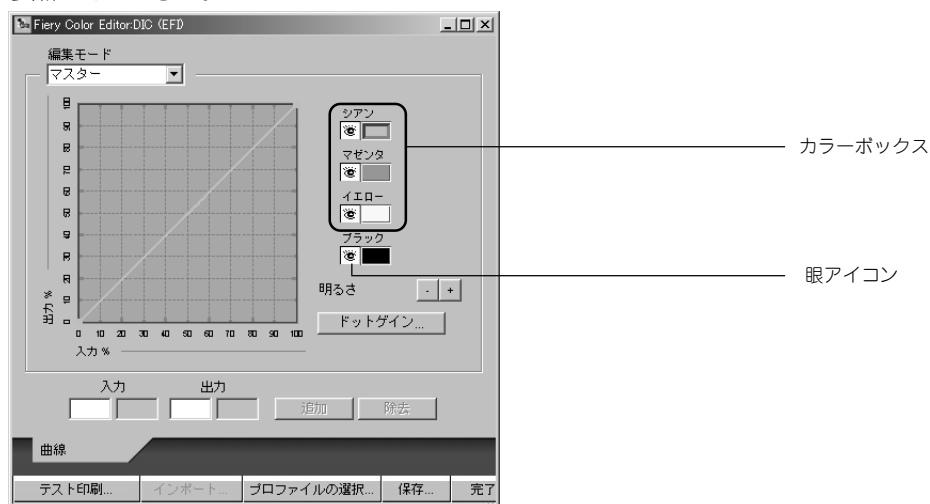
❷ ［表示］で［シミュレーション］または［出力］を選択し、一覧からプロファイルを選択します。

「シミュレーション」ではMLPro9800PS内蔵のシミュレーションプロファイルが、「出力」ではMLPro9800PS内蔵の出力プロファイルが表示されます。

❸ ［選択］をクリックします。

メモ　「Color Editor」を使わずに、Profile Managerからプロファイルを選択し、「編集」をクリックする方法もあります。

❹ 「編集モード」で［マスター］または［カスタム］を選択します。

［マスター］はシミュレーションプロファイルで❷で［シミュレーション］を選ぶと表示されます。［カスタム］は出力プロファイルで❷で［出力］を選ぶと表示されます。

「クイック」、「フル（ソースGCR）」または「フル（出力GCR）」モードについては、44ページを参照してください。

この画面ではプロファイルの表示と編集が可能です。グラフを利用してカラー出力値を編集できます。

「カスタム」を選択し出力プロファイルを編集する場合、画面左下の「インポート」ボタンをクリックすると、古いバージョンのFiery ColorWise ProToolsを使用し、別のMLPro9800PS カラーサーバで作成したキャリブレーションターゲット(.trg)を取り入れることができます。最新版のFiery ColorWise ProToolsでは、キャリブレーションターゲットのみの保存はできません。キャリブレーションターゲットは、出力プロファイルと組み合わせて保存されます。

❺ カラーボックスの左側をクリックして編集対象のカラーを選択します。

選択したカラーに対して曲線、明るさ、ドットゲイン値を変更できます。

選択されたカラーの左側ボックスに目のかたちをしたアイコンが表示されます。

4色（シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック）全部でも、各色の組み合わせでも選択可能です。1〜2種類のカラーを選択して編集を行うと、区別がつき微調整しやすくなります。

❻ 「ドットゲイン」をクリックし、ドットゲイン値を設定したあと、「OK」をクリックします。

ドットゲイン値は印刷標準出力シミュレーション用に設定します。ドットゲイン値を変更することにより、カラーバランスに影響を及ぼすことなく、より彩度の高い出力が可能になります。ドットゲイン値はドットゲインをシミュレートするのであり、ドットゲインを補整するわけではありません。

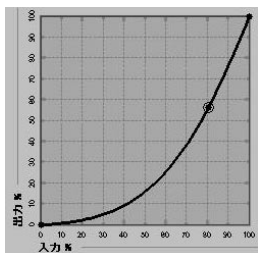
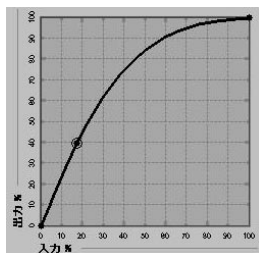
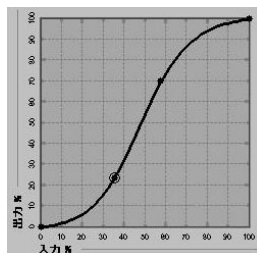
ここでは北米標準かヨーロッパ標準を選択できます。標準を選んでから、スライダーを動かしてドットゲイン値を指定します。

- 北米標準では、入力50%に対するゲインの有効値は出力0%から50%までです。
- ヨーロッパ標準では、入力40%に対するゲインの有効値は出力0%から59%まで、入力80%に対するゲインの有効値は出力0%から20%までです。

ドットゲイン値を使用すると、曲線のすべての点が除去されます。「ドットゲイン」画面で「OK」をクリックすると、警告メッセージが表示されるので、点を除去したくない場合は、「キャンセル」をクリックしてください。

❼ 明るさを変更するには［−］または［+］をクリックします。

❽ グラフ内の点をクリックしドラッグするか、「入力」と「出力」に値を入力後［追加］をクリックして、曲線を調整します。

グラフは横軸が入力インクの割合、縦軸が出力インクの割合で両軸共 10% ごとの間隔で表示されます。割合は、CMYK ハーフトーンの点のサイズを示します。曲線上の点が変更可能な箇所です。

上図のようなカーブでは中間色の濃度が低く、カラーが明るくなります。

上図のようなカーブでは中間色の濃度が高く、カラーが暗くなります。

上図のようなカーブではコントラストが顕著になります。

注 明るさやドットゲイン値を変更してから、点移動による曲線の調整を行ってください。点調整をしたあとに明るさやドットゲイン値を変更すると、点調整が無効になります。

「入力」または「出力」の値（%）を入力したり、キーボード上の矢印キーを使用すると、カーブの微妙な調整ができます。矢印キーを使用する場合は、まず、カーブをクリックしてください。

❾ カスタムモードの場合、必要に応じて、出力プロファイルに対する、CMYKの各カラーの最高濃度（D-Max）を設定します。

❿ ［保存］をクリックします。

⓫ 新しいプロファイル名を入力して、［保存］をクリックします。

新しいカスタムプロファイルが MLPro9800PS に保存されます。DIC などの印刷標準シミュレーションプロファイルを編集した場合は、あとで分りやすいようにプロファイル名にオリジナルの名称を含めておくことをおすすめします（たとえば「DIC-new」）。

注 MLPro9800PS提供のプロファイルを編集した場合は別名で保存してください。

Windows では、プリンタドライバで「双方向通信」が選択してある場合、カスタムプロファイルの名称が表示されます。この場合、定義済みカスタムプロファイル名に関連付ける必要がありません。

Mac OS では、プリンタドライバからカスタムプロファイルを選択するには、あらかじめカスタムプロファイルを定義済みカスタムプロファイル名（シミュレーションプロファイル用には「シミュレーション -1」〜「シミュレーション -10」、出力プロファイル用には「出力 -1」〜「出力 -10」）に関連づけておく必要があります。

MacOSプリンタドライバは、一度に10個までしか表示できません。カスタムプロファイルを定義済みカスタムプロファイル名に関連づける方法については、「カスタムプロファイルの関連づけ」（50 ページ）を参照してください。

メモ カスタムプロファイルをデフォルトとして設定した場合は、定義済みカスタムプロファイル名に関連づけなくても、「プリンタの初期設定」を選ぶことによりそのプロファイルをプリンタドライバから選択できます。

⓬ Color Editor を終了する場合は［完了］をクリックします。別のプロファイルを選択する場合は、［プロファイルの選択］をクリックします。

Profile Manager から Color Editor を表示した場合は、［完了］をクリックします。

Fiery ColorWise ProTools メイン画面に戻ります。

クイック、「フル(ソースGCR)」または「フル(出力GCR)」モードでシミュレーションプロファイルを編集するには：

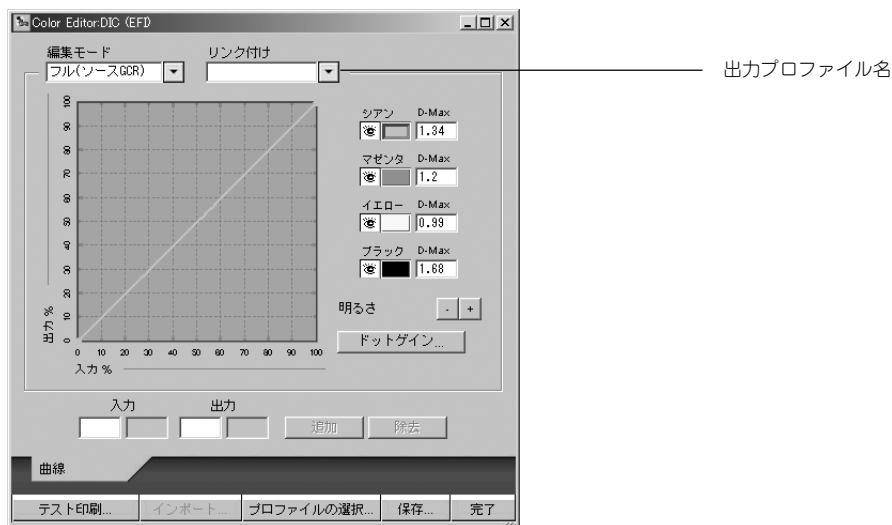
❶ Fiery ColorWise ProTools を起動し、[Color Editor] をクリックします。

❷ 「プロファイルの選択」画面で、[表示] - [シミュレーション] を選択します。

❸ プロファイルを選択し、[選択] をクリックします。

メモ Profile Managerからシミュレーションプロファイルを選択し、「編集」をクリックする方法もあります。

❹ [編集モード] で [フル (ソース GCR)]、[フル (出力 GCR)] または、[クイック] を選択し、「リンク付け」で編集後のシミュレーションプロファイルにリンクする出力プロファイルを選択します。

編集後のシミュレーションプロファイルが出力プロファイルにリンクします。

注 [クイック]を選択してシミュレーションプロファイルを編集する場合は、画面左下の[インポート]をクリックすると、古いバージョンのFiery ColorWise ProToolsを使用して、別のMLPro9800PS カラーサーバで作成したクイックシミュレーションプロファイルを取り入れることができます。最新版のFiery ColorWise ProToolsでは、カスタムのクイックまたはフルシミュレーションプロファイルを個別に保存することはできません。クイックとフルのシミュレーションは、シミュレーションプロファイルの構成要素として保存されます。

❺ 42ページの手順❺から手順❿を参照して、シミュレーションプロファイルを編集し、保存します。

CMYKシミュレーション、CMYKシミュレーション方法、および出力プロファイルの設定が編集前と異なる場合には、ここで保存されたシミュレーションは、印刷ジョブに自動的には適用されません。CMYKシミュレーション方法が異なったり、別の出力プロファイルが選択されている場合は、マスターシミュレーションが適用されます。

メモ シミュレーションプロファイルでは、1つの出力プロファイルにつき、1つのカスタムマスターシミュレーションおよび複数のリンクシミュレーション(「クイック」、「フル(ソースGCR)」、「フル(出力GCR)」)を設定できます。

編集後のシミュレーションプロファイルを元に戻すには

次の方法で編集後のシミュレーションプロファイルを元に戻すことができます。

- まだ保存していない場合は、[完了]をクリックし、「変更を保存しますか?」というメッセージが表示されたら、「いいえ」をクリックします。
- 編集したシミュレーションプロファイルを別名で保存したあとに、すべての編集内容(クイックおよびフルモード)を削除したい場合は、50ページを参照してください。

編集済みプロファイルの確認

MLPro9800PSにプロファイルを保存する前に、「テスト印刷」画面から次のページをテスト出力して編集結果を確認できます。

- **比較ページ** ー 編集前と編集後のプロファイルを適用した画像およびカラーパッチを比較できます。
- **ユーザ作成CALIB.PSファイル** ー カスタム比較ページを別途作成することもできます。まずアプリケーションでPostScript またはEPS(Encapsulated PostScript)ファイルを作成し、「CALIB.PS」と名付けます。それから、アプリケーションまたはFiery Downloaderを使用してMLPro9800PSの待機キューに印刷またはダウンロードします。

プロファイルを確認するには:

❶ Color Editor 画面で[テスト印刷]をクリックします。

❷ Fiery ColorWise ProTools提供の比較ページを出力する場合は、用紙サイズと入力トレイを指定し、[印刷]をクリックします。

ICCプロファイルを管理する(Profile Manager)

Profile ManagerでICCプロファイルの管理と編集を行うことができます。

MLPro9800PSのデフォルトプロファイルを変更すると、全ユーザの印刷ジョブに影響します。このため、システム管理者用パスワードを設定して、許可された担当者だけがプロファイルの変更を行えるようにすることをおすすめします。

ユーザはシミュレーションプロファイルを必要に応じて変更し、追加プロファイルを保存し使用できます。また、ネットワーク上のコンピュータからMLPro9800PSにプロファイルをダウンロードすることもできます。
プロファイルは次の3種類に分類されています。

- **RGBソースプロファイル** — MLPro9800PS内蔵のモニタプロファイルです。このプロファイルで、MLPro9800PSで処理されるRGBカラーのソース色空間を定義します。
- **シミュレーションプロファイル**— MLPro9800PSを使用して他のプリントデバイスをシミュレートするためのプリンタプロファイルです。
- **出力プロファイル**— MLPro9800PSのプロファイルです。

デフォルトプロファイル設定

Fiery ColorWise ProToolsでは「RGBソースプロファイル」、「シミュレーションプロファイル」、「CMYKシミュレーション方法」、「RGB色分解」オプションなどのデフォルト値を設定できます。これらのデフォルト値は、操作パネルの管理者メニューの「カラー設定」でも設定可能です。

出荷時に設定されている、デフォルト出力プロファイルの内容は変更できません。

デフォルトプロファイルを指定するには：

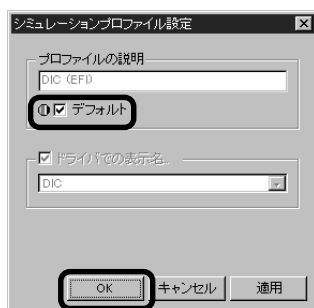
❶ Fiery ColorWise ProTools を起動し、［Profile Manager］をクリックします。

画面の左側には、コンピュータのデフォルトディレクトリ内のICCプロファイル名が一覧表示されます。右側には、MLPro9800PS 内蔵の３つに分類されたプロファイルが表示されます。

ロック「🔒」アイコン付きのプロファイルは削除できません。このプロファイルを編集した場合は、別名で保存する必要があります。シミュレーションと出力プロファイルのみ編集可能です。

プロファイル名の左端に小さなアイコンの付いているプロファイルは、デフォルトプロファイルです。他のプロファイルをデフォルトとして設定すると、新しくデフォルトとして設定されたプロファイルの名称の左側に、アイコンが表示されます。RGBソースプロファイルと出力プロファイルのデフォルトには、「◎」のアイコンが付いています。シミュレーションプロファイルのデフォルトは、RGB色分解の設定によってアイコンが異なります。「RGB色分解」が「シミュレーション」の場合は「⊜」、「出力」の場合は「◐」が表示されます。

❷ デフォルトに設定するプロファイルを選択し、［プロファイル設定］をクリックします。

❸ ［デフォルト］を選択し、［OK］をクリックします。

メモ

シミュレーションプロファイルの場合は上の画面が表示されます。RGBソースプロファイルまたは出力プロファイルの場合は、多少画面が異なります。

Profile Manager 画面の新デフォルトプロファイルの左横にターゲットアイコンが表示されます。

RGB ソースプロファイルのデフォルトが設定されていない場合、「なし」に設定されます。

定義済みのプロファイルを選択して、「プロファイル設定」をクリックすると、デフォルトに設定できます。デフォルトにするプロファイルの「出力プロファイル設定」-「プロファイルの説明」で、「デフォルト」を選択してください。定義済みのプロファイルに、「キャリブレーションセット使用」でキャリブレーションセットを指定し、「プロファイルの説明」に新しい名前を付けると、新しいデフォルトを作成できます。

ロック「🔒」アイコン付き出力プロファイルを「プロファイルの説明」で指定し、定義済みカスタムプロファイル名（「出力-1」～「出力-10」）と関連づけると、「出力プロファイル」プリントオプションとしてプリンタドライバで選択できます。操作手順は、ダウンロードされたプロファイルあるいは編集されたプロファイルを、印刷ジョブに適用する場合と同じです。詳細は、50ページ「カスタムプロファイルの関連づけ」を参照してください。

用紙定義プロファイルの使用

「用紙定義プロファイルを使用」機能を使用すると、印刷ジョブ用の用紙ごとに「Profile Manager」で出力プロファイルを指定する必要がなくなります。このオプションを選択しておくことにより、印刷ジョブの用紙の種類に応じた出力プロファイルを適用することができます。「用紙定義プロファイルを使用」オプションは、デフォルトで「オン」に設定されています。プリンタドライバから上書きしない限り、この設定がすべての印刷ジョブに適用されます。「用紙種類の混合」オプションで、印刷ジョブの各セクションに異なる用紙を定義している場合は、それぞれの用紙の種類に応じた出力プロファイルが適用されます。

「用紙定義プロファイルを使用」オプションを使用する前に、プリンタの操作パネルで各トレイ用に用紙の種類を定義しておく必要があります。

用紙定義プロファイルを使用するには：

❶ Fiery ColorWise ProTools を起動し、［Profile Manager］をクリックします。

❷ 出力プロファイル用バーで［用紙定義プロファイルを使用］を選択します。

「Profile Manager」の「用紙定義プロファイルを使用」での設定は、「Color Setup」にも自動的に反映されます。

プロファイルのダウンロード

MLPro9800PS提供のプロファイルはMLPro9800PSにあらかじめインストールされています。さらに、ネットワーク上のコンピュータから必要に応じて追加プロファイルをMLPro9800PSにダウンロードできます。

プロファイルをダウンロードするには：

❶ Fiery ColorWise ProTools を起動し、［Profile Manager］をクリックします。

画面の左側にはコンピュータのデフォルトディレクトリ内のICCプロファイル名が一覧表示されます。

デフォルトディレクトリは以下のとおりです。

- Windows 98/Me ─ ¥Windows¥System¥Color
- Windows NT 4.0 ─ ¥Winnt¥System32¥Color
- Windows XP/Server 2003 ─ ¥Windows¥System32¥Spool¥Drivers¥Color
- Windows 2000/XP ─ ¥Winnt¥System32¥Spool¥Drivers¥Color
- Mac OS 9.x─ システムフォルダ：ColorSyncプロファイル（ColorSync 2.5以降）

❷ 該当するプロファイルが一覧に表示されない場合は、別のディレクトリ内を探すために［参照］をクリックします。

Mac OS ではICCプロファイルは❶のデフォルトディレクトリ内にインストールされている必要があります。

❸ 「ディレクトリの選択」画面で、該当するプロファイルが格納されているディレクトリを探し、［OK］をクリックします。

❹ ダウンロード対象のプロファイルを選択します。

選択されたプロファイルがMLPro9800PSと互換性がある場合は、「ダウンロード可能なプロファイル」の矢印が緑色になります。「シミュレーション」と「出力」にダウンロードできるプロファイルは、プリントデバイスプロファイルのみです。「RGB ソース」にダウンロードできるプロファイルは、入力デバイスプロファイルのみです。

- Windowsの場合は、プロファイル名の最後に「.icc」または「.icm」の拡張子がついていないと表示されません。MacOSでは、プロファイルが適切なファイル形式でないと表示されません。
- Profile Manager画面の左側に表示されたプロファイルがすべてMLPro9800PSにダウンロードできるとは限りません。

シミュレーションプロファイルは、別のプリントデバイスからの出力を想定してMLPro9800PSから出力する場合に使用するプロファイルです。

出力プロファイルは、MLPro9800PS のプロファイルです。

CMYKプリンタのプロファイルは、シミュレーションプロファイルとしても、出力プロファイルとしてもダウンロードできますが、用途を考慮してダウンロードしてください。MLPro9800PSを使用して、別のプリンタの出力と同様の出力を得たい場合は、シミュレーションプロファイルとしてダウンロードします。MLPro9800PSのカスタムプロファイルをダウンロードする場合は、出力プロファイルとしてダウンロードします。

❺ 緑色の矢印をクリックしてプロファイルをダウンロードします。ダウンロードが終了したら［OK］をクリックします。

ダウンロードされたプロファイルが Profile Manager 画面の右側に表示されます。

Windows では、プリンタドライバで「双方向通信」が選択してある場合、定義済みプロファイル名に関連づける必要がありません。

Mac OS では、プロファイルを印刷ジョブに適用する前に、定義済みプロファイル名（RGB ソース用：「ソース-1」～「ソース-10」、シミュレーション用：「シミュレーション-1」～「シミュレーション-10」、出力用：「出力-1」～「出力-10」）に関連づけておくか（50 ページ参照）、またはデフォルトプロファイルとして設定しておく必要があります。

ダウンロードされた出力プロファイルには、デフォルトとなっている出力プロファイルのキャリブレーションターゲットが適用されます。

プロファイルのバックアップ

Profile Managerを使用してプロファイルのバックアップや削除をすることができます。必要に応じてカスタムプロファイルのバックアップを行ってください。

- Profile Manager画面でロックアイコンの付いていないプロファイルは、削除またはバックアップができます。ロックアイコンの付いているプロファイルは削除できませんが、ほとんどの場合バックアップは可能です。
- プリンタメニューの「管理者用メニュー」から「出荷時のデフォルト」を実行すると、カスタムプロファイルが削除されます。

プロファイルのバックアップを作成するには：

❶ Fiery ColorWise ProToolsを起動し、［Profile Manager］をクリックします。

❷ MLPro9800PS内蔵のプロファイルから、バックアップ対象のプロファイルを選択します。

Profile Manager画面中央の矢印が緑色かつ左向きになります。これによりプロファイルがアップロード可能になったことがわかります。

❸ 緑色の矢印をクリックし、保存先を指定したあと、［保存］をクリックします。

❹ ［OK］をクリックします。

プロファイルを削除するには：

❶ Fiery ColorWise ProToolsを起動し、［Profile Manager］をクリックします。

❷ プロファイルを選択し［削除］をクリックします。

注 MLPro9800PS提供のプロファイル、定義済みカスタム名に関連づけられているプロファイル（たとえば「シミュレーション-1」）、およびデフォルトに設定されているプロファイルは削除できません。

❸ ［はい］をクリックします。

カスタムプロファイルに関連づけてあるプロファイルやデフォルトに設定されているプロファイルを削除したい場合は、「プロファイル設定」をクリックし、デフォルト設定を解除し、さらにドライバの表示名を解除してから削除します。

カスタムプロファイルの関連づけ

Windowsでは、プリンタドライバで「双方向通信」が選択されている場合、すべてのプロファイルがプリンタドライバに表示され、PPDから各印刷ジョブに対してプロファイルを選択できます。

MacOSでは、ダウンロードまたは編集されたプロファイルを、印刷ジョブに適用するには、そのプロファイルを定義済みカスタム名に関連づけておく必要があります。プロファイルの種類ごとに、定義済みカスタム名が10個ずつ用意されています（RGBソース用：「ソース-1」〜「ソース-10」、シミュレーション用：「シミュレーション-1」〜「シミュレーション-10」、出力用：「出力-1」〜「出力-10」）。

次にカスタムシミュレーションプロファイルを例にとって手順を説明します。カスタム出力プロファイル、またはダウンロードした出力プロファイルの関連づけも同じ手順で行います。

プロファイルを関連づけるには：

❶ **Fiery ColorWise ProTools を起動し、［Profile Manager］をクリックします。**

「シミュレーション」プロファイルに、カスタムプロファイル（たとえば「DIC-new」）が表示されます。「ドライバでの表示名」には何の情報も表示されていません。

❷ **MLPro9800PS内蔵のプロファイルから、対象プロファイル（「DIC-new」）を選択し、［プロファイル設定］をクリックするか、プロファイル名をダブルクリックします。**

❸ **「ドライバでの表示名」を選択し、ポップアップメニューからカスタムシミュレーション名（「シミュレーション-1」～「シミュレーション-10」）を選択後、［適用］をクリックします。**

他のプロファイルに関連づけられていないカスタム名を選んでください。関連づけ済みのカスタム名を選択すると、エラーメッセージが表示されます。

出力プロファイルの場合、定義済みの名称は、「出力-1」～「出力-10」です。

MLPro9800PSに内蔵のプロファイルを削除することはできませんが、「ドライバでの表示名」で、編集済みのプロファイルにMLPro9800PS提供のプロファイルの名称を付けて書き換えることは可能です。

ロックアイコン付き出力プロファイルを「プロファイルの説明」で指定し、定義済みカスタムプロファイル名（「出力-1」～「出力-10」）と関連づけると、「出力プロファイル」プリントオプションとしてプリンタドライバで選択できます。

出力プロファイルを定義する場合は、「出力プロファイル設定」画面に「キャリブレーションセット使用」が表示されます。プロファイルをジョブに適用する前に、このキャリブレーションセットでMLPro9800PSのキャリブレーションを行う必要があります。表示されたキャリブレーションセットで測定を行わない場合、デフォルトの測定値が適用されます。キャリブレーションセットの詳細は、28ページを参照してください。

プロファイル設定で、ロックされていないプロファイルの「プロファイルの説明」を変更できます。

❹ **［OK］クリックします。**

「DIC-new」の「ドライバの表示名」に、関連づけたカスタム名が表示されます。プリンタドライバの「CMYKシミュレーションプロファイル」オプションでこのカスタム名（「シミュレーション-1」）を選択すると、印刷ジョブに「DIC-new」シミュレーションが適用されます。

カスタムシミュレーションプロファイルを定義済みのカスタム名に関連づけない場合、CMYKシミュレーションが「なし（キャリブレーションあり）」で出力されます。カスタムRGBソースプロファイル、または出力プロファイルが、定義済みカスタム名と関連づけられていない場合は、デフォルトのプロファイルが適用されます。

スポットカラーを管理する(Spot-On)

MLPro9800PSは、スポットカラーをCMYK値に近づけて、プリンタのCMYK各色のトナーを使用して、スポットカラーを再現できます。
スポットカラーとそのCMYK値の一覧をスポットカラー辞書と呼び、Spot-Onでは複数のスポットカラー辞書を管理し、各出力プロファイル用にそれぞれ一つのスポットカラー辞書を使用できます。

- Spot-On定義のCMYK値を使用するには、「スポットカラーマッチング」オプションを使用できるように設定しておく必要があります。
- Spot-OnはMLPro9800PS-X及びMLPro9800PS-Sで利用できます。

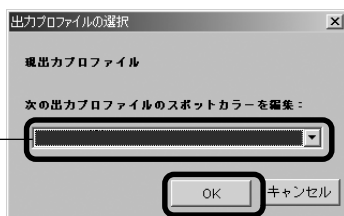
Spot-Onの起動

Spot-Onを起動して、出力プロファイルを指定します。

一度に1人のユーザのみSpot-Onを使用できます。

Spot-Onを起動するには：

❶ Fiery ColorWise ProTools を起動し、[Spot-On] をクリックします。

❷ プロファイルを選択し、[OK] をクリックします。

メモ Spot-On画面に表示されるCMYK値は、ここで指定した出力プロファイル用に換算されています。

Spot-Onの使用

MLPro9800PSではデフォルトで、システムカラーライブラリと複数のPANTONEカラーライブラリが提供されています。MLPro9800PS-XではさらにDIC、HKS、TOYOがあわせて提供されています。
さらにデフォルトを示すアイコン「 」が表示されます。

Spot-Onではカスタムのカラーまたはグループを追加でき、グループ内のカラーは、カラーグループを開くことにより表示できます。追加グループにはカスタムグループアイコン「 」が表示されます。

カラーグループを開閉するには：

❶ グループ名左側のアイコンをダブルクリックします。

❷ カラーグループを閉じるには、グループ名左側のアイコンをダブルクリックします。

❸ 一覧内の全カラーグループを閉じるには [編集] - [すべて閉じる] を選択します。

既存スポットカラーの編集

MLPro9800PS上の既存カラーグループを表示し、管理できます。

Spot-On内のカラーグループはその優先順位に従って表示されます。優先順位の高いカラーグループが一覧の上部に表示されます。カラーの優先順位を管理することにより、同一のスポットカラーに対し複数のCMYK値を割り当てられます。

カラーの優先順位を替えるには：

メモ 個々のスポットカラーには丸いカラーアイコンが表示されます。

❶ 選択したカラーグループ、または選択したカラーを上下に移動するには、ツールバー上の［上に移動］/［下に移動］アイコンをクリックします。

❷ 選択したカラーグループ、またはカラーを一覧内の別の場所に移動するには、ツールバーの［切り取り］/［コピー］をクリックしてから、一覧内の移動先をクリックし、ツールバーの［貼り付け］をクリックします。

注 「切り取り」機能はカスタムカラーにのみ使用できます。

カラーグループにより、名前変更を促すメッセージが表示されます。新しい名前で保存するための接頭辞/接尾辞を選択し［OK］をクリックします。新しい名前のカスタムカラー、またはグループが貼付けられます。

特定のカラーを検索するには：

❶ ［編集］-［検索］を選択します。

❷ カラー名を入力し、［OK］をクリックします。

❸ 同じ条件で別のカラーを検索するには、［編集］-［再検索］を選択します。

カスタムスポットカラーの作成

Spot-OnではデフォルトでDM提供されているPANTONEやDICに加え、ユーザ定義のカスタムスポットカラーまたはグループを追加できます。

新しいカラーまたはグループを追加するには：

1. 一覧の追加したい場所で、カラーまたはグループ行を選択します。
2. カラーまたはグループ行を選択します。
3. カラーを追加するには［編集］-［新カラー］を、グループを追加するには［編集］-［新グループ］を選択します。

   新しいカラーまたはグループが表示されます。

カスタムカラーまたはグループの名称を変更するには：

1. カラーまたはグループ名を選択します。
2. アルファベットの大文字小文字やスペースなども含め、印刷ジョブ内で定義されているとおりに、新しい名称を入力します。

PANTONEなどのデフォルトカラーまたはグループは、名称を変更できません。

カスタムスポットカラーグループのダウンロード

カスタムカラーグループをMLPro9800PSにダウンロードし、使用することができます。

カスタムカラーグループをダウンロードするには：

1. 一覧内でカラーグループを追加したい場所の行を選択します。
2. ［ファイル］-［ダウンロード］を選択します。
3. ダウンロードするカラーグループを選択し、［開く］をクリックします。

   ダウンロードしたカラーグループの名称が既存グループと同一の場合は、ダウンロードしたカラーグループの名称を変更するように促されます。

カスタムカラーグループのアップロード

カスタムカラーグループをICCファイルとして、MLPro9800PSからコンピュータにアップロードできます。この機能により、該当するカラーグループを他のMLPro9800PSにダウンロードし共有できます。

カスタムカラーグループをアップロードするには：

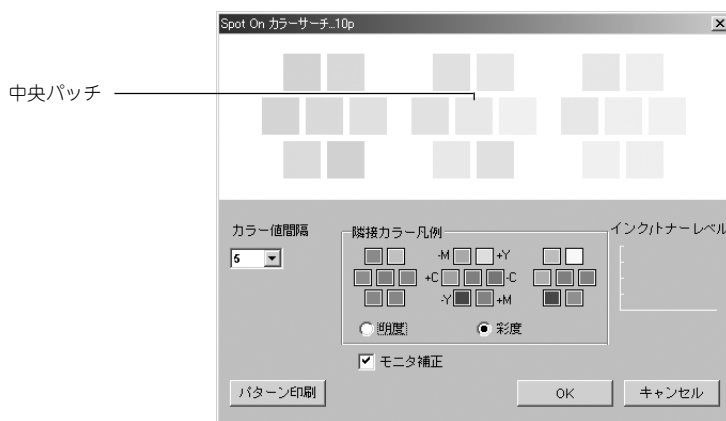
1. アップロード対象のカラーグループを選択します。
2. ［ファイル］-［アップロード］を選択します。
3. ファイルの格納場所を指定し、ファイル名を入力し［保存］をクリックします。

カラー値の編集

Spot-Onの特定スポットカラーをプリンタで再現するための正しいCMYK値をカラーサーチ機能により定義できます。既存スポットカラーが予想通りに出力できない場合は、そのカラー値を編集し期待するカラーに近づけられます。近似カラーをベースにし最良カラーになるまでその色相、彩度、明度を変更できます。

カラーサーチ機能を使用しターゲットカラーを定義するには：

❶ カラーグループ内で、カラーアイコンをダブルクリックします。

現在選択されているカラーが中央パッチとして画面に表示されます。

❷ ターゲットカラーにより近い隣接カラーがある場合、そのカラーパッチをクリックし中央パッチに指定します。

メモ　隣接パッチは中央パッチの明度または彩度を調整したバリエーションです。隣接パッチをクリックするとそのカラーが中央パッチとして表示され、隣接パッチもそれにつれて更新されます。

注　選択カラーには、画面右上に感嘆符アイコン「!」が表示されるものがあります。この場合は、中央パッチカラーがプリンタの色の範囲境界上またはその境界外にあり、正しく再現されない可能性があることを示しています。その場合は色の範囲外カラーではなく、色の範囲内の最近似カラーを使用することをおすすめします。

❸ 「隣接カラー凡例」で、明度または彩度を選択します。

「明度」を選択すると、オリジナルカラーの明度をより暗いカラーからより明るいカラーに調整した隣接パッチが生成されます。このバリエーションではより暗いカラーが左、オリジナルカラーが中央、より明るいカラーが右に表示されます。

「彩度」を選択すると、オリジナルカラーの彩度をより低いカラーからより高いカラーに調整した隣接パッチが生成されます。このバリエーションではより低いカラーが左、オリジナルカラーが中央、より高いカラーが右に表示されます。

❹ 「カラー値間隔」では、隣接パッチ間のカラー値間隔を指定します。

高い値に設定すると、中央パッチカラーと大きく異なる隣接パッチが生成されます。ターゲットカラーに近づけるためには、カラー値間隔を小さく設定することをおすすめします。

❺ カラーパッチの印刷カラーをスクリーン上でシミュレートする場合は、［モニタ補正］を選択します。

このシミュレーションは、表示用に設定されたモニタプロファイルによって変わります。モニタプロファイルを指定するには、Spot-On メイン画面で［編集］-［環境設定］を選択してください。

❻ ターゲットカラーが中央パッチとして表示されるまで、カラーパッチの明度または彩度を調整し隣接パッチをクリックします。

❼ ［パターン印刷］をクリックします。

❽ 「印刷設定」画面で、適切な項目を指定します。

「出力方法」では「カラーサーチパターン」または「隣接カラーパターン」のいずれかを選択します。「カラーサーチパターン」を選択すると、「カラーサーチ」画面に表示されたものと同じパターンのパッチを印刷します。「隣接カラーパターン」を選択すると、3列x8行形式でパッチを印刷します。

「用紙サイズ」ではパッチ印刷に使用する用紙のサイズを指定します。

メモ より正しい測定結果を得るには、「用紙サイズ」で「A4/レター」を選択することをおすすめします。

「給紙トレイ」ではパッチ印刷に使用する用紙の入ったトレイを指定します。

❾ ［OK］をクリックします。

「パターン印刷」で印刷したページには次の情報が含まれています。

- カラー名
- 隣接パッチ用の明度または彩度の選択結果
- カラー値間隔
- 中央パッチ/オリジナルカラーのCMYK値
- 日時
- 名称付きカラープロファイル
- 指定した出力プロファイル名

カラーサーチ機能の目的は、印刷カラーがターゲットカラーにマッチするカラーを見つけだすことであり、スクリーン上でターゲットカラーをシミュレートすることではありません。「パターン印刷」から隣接パッチを含むパッチページを印刷することにより、印刷パッチの中からターゲットカラーにマッチするパッチを選択でき、そのパッチに対応したスクリーン上のパッチをターゲットカラーとして指定できます。

❿ 「Spot-On カラーサーチ」画面でターゲットカラーを選択し、［OK］をクリックします。

編集済みカスタムカラーがカラーグループ内に表示されます。

CMYK値入力でターゲットカラーを定義するには：

❶「Spot-On カラーサーチ」画面で中央パッチをクリックします。

❷ CMYK 値の入力方法を選択します。

「パーセント」選択では、0.5% 間隔で「0」から「100」までの値を入力できます。小数点第 2 桁以下の値は繰り上げられます。

「デバイスコード」選択では、「0」から「255」までの範囲で CMYK 値を入力できます。このオプションでは、MLPro9800PS で再現できるカラー値範囲を使用し、「0」から「100」に比べより詳細な設定ができるため、微調整を行えます。

❸ ターゲットカラーの CMYK 値をそれぞれ入力します。

メモ　新しいカラー値を入力すると、プレビューパッチで新旧カラーが更新表示されます。

❹ ［OK］をクリックします

新カスタムカラーが「Spot-On カラーサーチ」画面に中央パッチとして表示されます。

ターゲットカラー測定用計器の使用

EFI Color Profilerを使用できる場合は、その測定値を直接Spot-Onにインポートできます。この機能により、印刷されたロゴの赤やパッケージの黄など実際の印刷カラーをインポートし、Spot-Onでターゲットカラーとして指定します。

メモ　EFI Color ProfilerはEFI社製のカラーマネージメントツールです。

EFI Color Profilerの使用

EFI Color Profilerの使用方法の詳細については、EFI Color Profilerの取扱説明書を参照してください。

測定値をSpot-Onにインポートするには：

❶ EFI Color Profiler 用ソフトウェアがインストールされ、EFI Spectrometer ES-1000 がパソコンと接続され設定済みであることを確認します。

インストレーションと設定の詳細については、「付録 A」および EFI Color Profiler の取扱説明書を参照してください。

❷ ［計器］-［開始］を選択します。

❸ 「計器を選択」画面で、適切な項目を選択します。

「計器」ではEFI Spectrometer ES-1000を選択します。

❹ ［OK］をクリックします。

メモ EFI Spectrometer ES-1000がSpot-Onに接続されると、計器のインジケータランプがしばらく点滅します。点滅が終了すると、EFI Spectrometer ES-1000の測定準備が整ったことを表します。

❺ EFI Spectrometer ES-1000のアパーチャを測定対象の上に置き、測定ボタンを押します。

測定カラーのCMYK値が以下のルールでSpot-Onにインポートされます。

- Spot-Onメイン画面であるカラーが選択されている場合は、新測定カラーに更新されます。
- Spot-Onメイン画面でグループが選択されている場合は、新測定カラーがそのグループ内に追加されます。
- 「Spot-Onカラーサーチ」画面が表示されている場合は、中央パッチが測定カラーに更新され、それに伴って隣接パッチも更新されます。
- 「中央パッチカラー設定」画面が開いている場合は、測定カラーのCMYK値がC、M、Y、K各欄にインポートされます。

❻ 測定が終了したら、［計器］-［終了］を選択します。

変更の保存とSpot-Onの終了

編集または作成したスポットカラーをMLPro9800PSで使用可能にするには、Spot-Onを終了する前にそれらを保存する必要があります。
ただし以下の変更は保存する必要はありません。

- カラーまたはカラーグループの優先順位の変更
- カラーまたはカラーグループ のダウンロード
- カラーまたはカラーグループ の消去

Spot-Onでの変更を保存するには：

❶ ［ファイル］-［保存］を選択します。

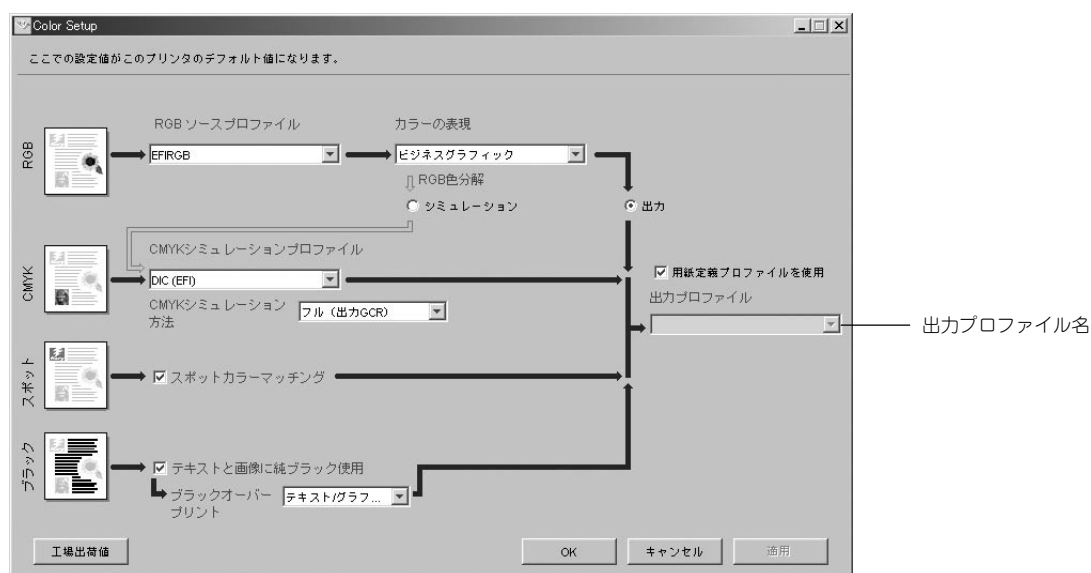
❷ 「閉じる」ボタンをクリックし、Spot-Onを終了します。

Color Wiseオプションのデフォルトを設定する(Color Setup)

Color Setupは、カラー管理用ColorWiseオプションのデフォルト値を設定/変更するために使用します。

ColorWiseオプションのデフォルト設定

❶ Fiery ColorWise ProTools を起動し、［Color Setup］をクリックします。

❷ デフォルトを設定します。

プリンタドライバまたはCommand WorkStation/Command WorkStation LE、 Fiery Spoolerから個別のジョブに対するオプション設定を変更しない限り、MLPro9800PSから出力するすべての印刷ジョブに、Color Setup設定が適用されます。

Profile Managerでのデフォルトプロファイル変更は、自動的にColor Setupに反映されます。また、Color Setupでのデフォルト値を変更すると、自動的にMLPro9800PSに反映されます。

❸ ［OK］または［適用］をクリックすると変更が有効になります。［キャンセル］をクリックすると、変更内容は適用されず Color Setup の画面が閉じます。

通常は、工場出荷時のデフォルト設定のままで、適切なカラー出力が得られます。ColorWiseオプションの設定を工場出荷時の値に戻すには、「工場出荷値」をクリックします。

付録 A：カラー測定計器

本付録では、EFI Color Profilerの使用方法について説明します。

EFI Color ProfilerはEFI社製のカラーマネージメントツールです。

EFI Color Profilerの使用

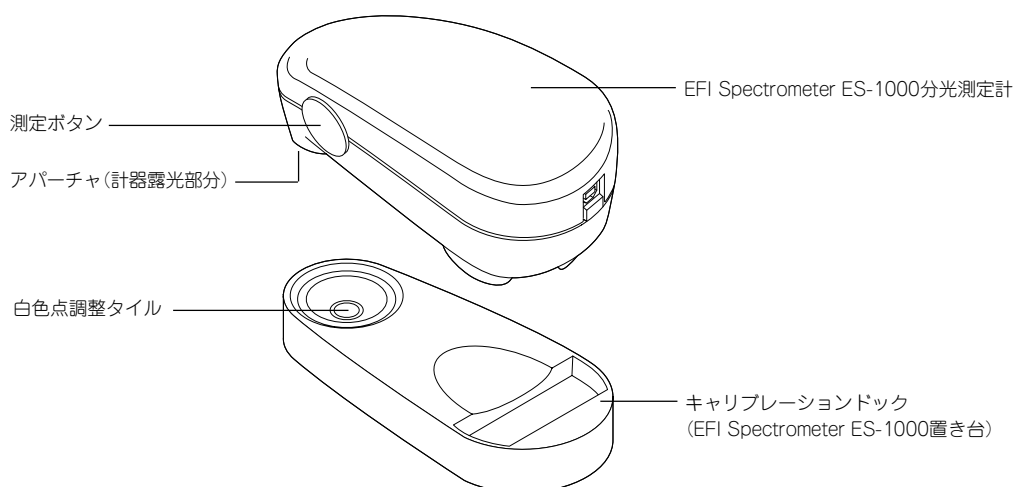
EFI Color ProfilerはEFI社製のカラーマネージメントツールです。

EFI Color Profilerに付属のEFI Spectrometer ES-1000は、カラー印刷物などの反射スペクトルを測定する分光測色計です。印刷物の濃度とカラーを手のひらで動かしながら手軽にまた正確に測定できるため、MLPro9800PSのキャリブレーションに大変効率的なツールです。

- Macintoshコンピュータの場合は、USBポート装備のコンピュータを使用し測定してください。
- EFI SpectrometerはWindowsNT4.0ではサポートされていません。

EFI Color Profilerの設定

EFI Color ProfilerをMLPro9800PSのキャリブレーションに使用する前に、EFI Spectrometer ES-1000をコンピュータに接続し設定しておく必要があります。EFI Spectrometer ES-1000の設定と調整の詳細については、計器付属の取扱説明書を参照してください。

次図はEFI Spectrometer ES-1000の構成部分を示しています。

- **アパーチャ** — 計器の露光部分の位置を示しています。
- **測定ボタン** — このボタンを押して測定処理を開始します。
- **白色点調整タイル、キャリブレーションドック** — EFI Spectrometer ES-1000をキャリブレーションドックに置くことにより、EFI Spectrometer ES-1000の白色点調整が行われます。

付録 B：測定値の取り込み

本付録では、測定値を取り込む際に利用できるSAIFF（Simple ASCII Import File Format）ファイルについて説明します。測定値は以下の形式でテキストファイルとして保存します。

シンプルASCIIインポートファイルフォーマット(SAIFF)

Status Tの測定データをFiery ColorWise ProToolsのCalibratorで読み込むために、SAIFF形式のファイルを用意します。以下の3つのファイル形式があります。

- EFI 34パッチページ用1 D Status T濃度
- EFI 21パッチページ用1 D Status T濃度
- その他のページ(各トナーで最高256パッチまで)用1 D Status T濃度

ファイルはタブなしのASCII形式です。データの区切りは、1文字分のスペースでも複数スペースでもかまいません。各行に必ずデータが入るようにして、余分な改行は入れないでください。各行は、特定のトナーの値を4つのパッチ(CMYK)で表します。ファイル内の任意の行にコメントを入れられます。コメントのある行は「#」で始め、そのすぐ後にスペースを入れます。「#」で始まる行でそのすぐ後にスペースがない行には、コメントは入れられません。コメントの行にはコメント以外のデータは入れられません。

データの行には各々5つの値が入っています。最初の値は、EFI 34またはEFI 21のページではパッチ番号です。そのほかのページでは、トナーの%を表します。残りの4つの値は、そのパッチにおけるCMYKの濃度の値です。行は、パッチ番号またはトナーの%が、小さい番号から始まって順に大きくなるように並びます。

Windowsではファイル名に拡張子「.cm1」を付けます。MacOSではファイルをテキスト形式で保存します。

EFI 34、EFI 21の測定データは用紙の種類によって異なります。そのほかのページでは、最初の行でトナーの値が0であれば、Calibratorは、測定値が絶対値であるものとみなし、2行目以降のデータから最初の行の濃度を差し引いて用紙に合わせて調整します。

EFI 34パッチページの1D Status T濃度の例

このファイル形式は、EFI 34パッチページのStatus T濃度測定値を指定する際に使用します。行の最初の番号はパッチの番号です。パッチは1から始まり34で終わります。

```
#!EFI 3
# EFI ColorWise 2.0 Data
type: 1DST34
# Cyan Magent Yellow Black
1 0.0300 0.0400 0.0200 0.0400
2 0.0600 0.0700 0.0800 0.0700
3 0.1000 0.1000 0.1000 0.1000
(途中省略)
33 1.6700 1.3400 0.8900 1.6700
34 1.7200 1.4300 0.9300 1.7500
```

EFI 21パッチページの1D Status T濃度の例

このファイル形式は、EFI 21パッチページのStatus T濃度測定値を指定する際に使用します。行の最初の番号はパッチの番号です。パッチは1から始まり21で終わります。

```
#!EFI 3
# EFI ColorWise 2.0 Data
type: 1DST21
# Cyan Magent Yellow Black
1 0.0300 0.0400 0.0200 0.0400
2 0.0600 0.0700 0.0800 0.0700
3 0.1000 0.1000 0.1000 0.1000
（途中省略）
20 1.6700 1.3400 0.8900 1.6700
21 1.7200 1.4300 0.9300 1.7500
```

そのほかのページの1D Status T濃度の例

このファイル形式は、ユーザの選んだパッチページのStatus T濃度測定値を指定する際に使用します。行の最初の番号はパッチのトナーの%です。%は必ず0から始まり100で終わります。途中の%は小さい値から大きい値へ順に並びます。

```
#!EFI 3
# EFI ColorWise 2.0 Data
type: 1DST
# Cyan Magent Yellow Black
0.0000 0.0300 0.0400 0.0200 0.0400
0.3922 0.0600 0.0700 0.0800 0.0700
1.1765 0.1000 0.1000 0.1000 0.1000
（途中省略）
98.0000 1.6700 1.3400 0.8900 1.6700
100.0000 1.7200 1.4300 0.9300 1.7500
```

付録C：DIC標準色をシミュレーション印刷するには

本付録では、MLPro9800を使用してDIC標準カラーをシミュレーション印刷する方法について説明します。

DIC標準色

1 本プリンタは、大日本インキ化学工業株式会社より「DIC標準色」の認定を受けています。
2 「DIC標準色」とは、大日本インキ化学工業株式会社が印刷物の色の標準化のために定めた規格です。
  この規格は、アート紙上のオフセットプロミス印刷の色範囲として設定したものです。
3 本プリンタは、D50光源下で「DIC標準色」の基準レベル「電子写真方式」に適合しています。これにより、標準的オフセットプロミス印刷における印刷物の色を近似的にシミュレーションすることができます。

シミュレーション印刷

認定を受けた印刷条件で印刷するには以下の設定で印刷します。

使用する紙：

沖データ製、エクセレントグロス紙

エクセレントグロス紙以外では、「DIC標準色」の認定条件を満たさないため、必ずエクセレントグロス紙をご使用ください。

プリンタのキャリブレーション：

オプションのEFI Profilerに付属のSpectrometer ES-1000を使います。

キャリブレーションを実行しなくてもシミュレーション印刷の手順は進められますが、より正確なシミュレーションを行うためにはSpectrometer ES-1000にキャリブレーションの実行をお奨めします。

キャリブレーション実行直前に、本書の「カラーキャリブレーション」の章で説明している手順でプリンタの自動濃度補正をプリンタメニューから実行します。

ColorWise ProToolsからキャリブレータを起動します。

「プリント設定を確認」のスクリーン設定で「12x6ドットスクリーン」を選択し、用紙の種類で、「光沢紙」を選択します。

測色用のカラーパッチを印刷する際、沖データ製、エクセレントグロス紙を使用します。

本書の「カラーキャリブレーション」の章で説明している手順でキャリブレーションを実行します。

PSプリンタドライバの設定：

MLPro9800PSドライバを使用します。PCLドライバではご利用になれません。

プリンタドライバのプロパティ、Fiery印刷タブの「用紙トレイ」から「用紙タイプ」に「光沢紙」を選びます。

同様に、「Color Wise」にて「エキスパート設定」を選択し、以下の設定をします。

CMYKシミュレーションプロファイルに「DIC(EFI)」を選択
CMYKシミュレーション方法に「フル(出力GCR)」を選択
出力プロファイルに、「Fiery 3640A3 12x6 Dot Glossy for DIC/TOYO v1F」を選択

プリンタドライバのプロパティ、Fiery印刷タブの「画像品質」から以下の設定をします。

「印刷品位」に「高精細(多階調)」を選択
「スクリーン選択」に「ドットスクリーン」を選択

1　本プリンタは、「DIC標準色」認定を受けていますが、大日本インキ化学工業株式会社の発行している「DICカラーガイド・プロセスカラーノート」見本帳(*1)の色と必ずしも一致するとは限りません。

2　本プリンタは、経時変化、環境変化等に伴う印画特性の変化により、プリント色に多少の誤差が生じる場合がありますのでご注意ください。

3　本プリンタは、製品個々および消耗品の特性バラツキにより、プリント色に多少の誤差が生じる場合がありますのでご注意ください。

*1「DICカラーガイド・プロセスカラーノート」見本帳は、特色見本帳「DICカラーガイド®」、「DICカラーガイド®パート2」の色を、アート紙上、DIC製プロセスインキを用いて近似的にプロセス印刷(黄、紅、藍、墨)の網点%の組み合わせで色再現したプロセス見本帳です。

付録 D：東洋インキ標準色コート紙をシミュレーション印刷するには

本付録では、MLPro9800を使用して東洋インキ標準色コート紙カラーをシミュレーション印刷する方法について説明します。

東洋インキ標準色コート紙

1 本プリンタは、東洋インキ製造株式会社より東洋インキ標準色コート紙プロファイル（TOYO Offset Coated 2.0）をライセンスし、東洋インキ製造株式会社から認定を受けています。
2 東洋インキ標準色コート紙プロファイルは、ICCプロファイル規格に準拠したデバイスプロファイルで、東洋インキ製造株式会社が作成した標準オフセット印刷のプロファイルです。
3 「東洋インキ標準色コート紙」とは、東洋インキ製造株式会社の枚葉インキを用い、東洋インキ製造株式会社が標準と考えるオフセット枚葉印刷の再現色を、コート紙への実機印刷により定めたものです。「東洋インキ標準色コート紙」は日本国内におけるプロセスカラー印刷の色標準である「Japan Color」に準拠しています。

シミュレーション印刷

認定を受けた印刷条件で印刷するには以下の設定で印刷します。

使用する紙：

沖データ製、エクセレントグロス紙

エクセレントグロス紙以外では、認定条件を満たさないため、必ずエクセレントグロス紙をご使用ください。

プリンタのキャリブレーション：

オプションのEFI Profilerに付属のSpectrometer ES-1000を使います。

キャリブレーション実行直前に、本書の「カラーキャリブレーション」の章で説明している手順でプリンタの自動濃度補正をプリンタメニューから実行します。

ColorWise ProToolsからキャリブレータを起動します。

「プリント設定を確認」のスクリーン設定で「12x6ドットスクリーン」を選択し、用紙の種類で、「光沢紙」を選択します。

測色用のカラーパッチを印刷する際、沖データ製、エクセレントグロス紙を使用します。

本書の「カラーキャリブレーション」の章で説明している手順でキャリブレーションを実行します。

PSプリンタドライバの設定：

MLPro9800PSドライバを使用します。PCLドライバではご利用になれません。

プリンタドライバのプロパティ、Fiery印刷タブの「用紙トレイ」から「用紙タイプ」に「光沢紙」を選びます。

同様に、「Color Wise」にて「エキスパート設定」を選択し、以下の設定をします。

CMYKシミュレーションプロファイルに「TOYO Offset Coated 2.0」を選択
CMYKシミュレーション方法に「フル（出力GCR）」を選択
出力プロファイルに、「Fiery 3640A3 12x6 Dot Glossy for DIC/TOYO v1F」を選択

プリンタドライバのプロパティ、Fiery印刷タブの「画像品質」から以下の設定をします。

「印刷品位」に「高精細（多階調）」を選択
「スクリーン選択」に「ドットスクリーン」を選択

東洋インキ標準色コート紙プロファイルの使用条件および注意事項

1 東洋インキ標準色コート紙プロファイルを使用して再現されたコンピュータビデオシミュレーションの色やカラープリンタ等により出力された色は、「東洋インキ標準色コート紙」と必ずしも一致するものではありません。
2 東洋インキ標準色コート紙プロファイルを使用し、または使用できなかったことにより生じた一切の損害に関して、東洋インキ製造株式会社はいかなる責任も負いかねます。
3 東洋インキ標準色コート紙プロファイルの一切の著作権は東洋インキ製造株式会社が所有しており、東洋インキ製造株式会社の事前の書面による許可無く、本データを譲渡、提供、転貸、頒布、公開せず、第三者に使用させることもできません。
4 東洋インキ標準色コート紙プロファイルに関して、東洋インキ製造株式会社はいかなるお問い合わせも受けかねます。
5 ドキュメント中に記載されている会社名、製品名は、関係各社の商標または登録商標です。

索　引

索引

索引

[ク]

[ケ]

[コ]

[サ]

[シ]

[ス]

[セ]

[ソ]

[タ]

索引

索引

[ホ]

[マ]

[メ]

[モ]

[ユ]

[レ]

オキカラーページプリンタ
MICROLINE Pro 9800PS-X
MICROLINE Pro 9800PS-S
MICROLINE Pro 9800PS-E

ユーザーズマニュアル
カラーガイド

発行日　2006年 10月　第3版
発行者　株式会社 沖データ

43106701EE

このマニュアルは再生紙を使用しています。

株式会社 沖データ
お客様相談センター
0120-654-632
(携帯電話からは03-5833-5710)

受付時間　9:00～20:00 月曜日～金曜日
9:00～17:00 土曜日
（但し 祝日を除く）